FMV BIBLO LOOX

U/B50, U/B50N

B5FJ-9071-01

# 取扱説明書

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

## 目　次

# マニュアルのご紹介

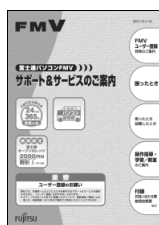
## ■添付の紙マニュアル

### 『箱の中身を確認してください』

添付の機器、マニュアル、CD などの一覧です。
ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

### 『取扱説明書』（本書）

使用上のご注意、パソコンを使うための準備、
ご購入時の状態に戻す方法などを説明しています。

### 『サポート＆サービスのご案内』

ユーザー登録のしかた、お問い合わせのしかたについて説明しています。

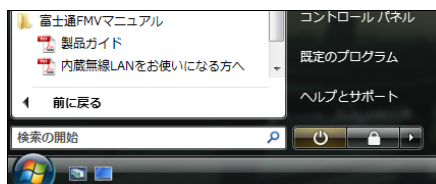
## ■電子マニュアル

### □『製品ガイド』 PDF形式

本体各部の名称と働き、機器の取り付けや取り扱いなどを説明しています。

### □『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』 PDF形式

●「スタート」ボタンからご覧ください

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通 FMV マニュアル」の順にクリックし、ご覧になりたいマニュアルをクリックします。

# このパソコンをお使いになる前に

## 安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

## 保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、CD/DVD などの媒体にバックアップをお取りください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後 6 年です。

## 使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

### ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
   お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
   お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
   本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
   (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
   本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
   ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
   (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
   お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
   お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
   お客様は、「ＦＭＶ」ロゴ入りの壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
8. 保証の範囲
   (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
   また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
   (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
   (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
9. ハイセイフティ
   本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

   記

   原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

## マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの「Readme.txt」を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

## データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

## 添付品は大切に保管してください

ディスクやマニュアル等の添付品は、本製品をご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

## 液晶ディスプレイの特性について

- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。
  なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

## 本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

## 有寿命部品について

- 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1 日約 8 時間のご使用で約 5 年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- 摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- 本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

**＜主な有寿命部品一覧＞**
CRT、LCD、ハードディスクドライブ、フロッピーディスクドライブ、CD/DVD ドライブ、光磁気ディスクドライブ、
スマートカードリーダ／ライタ、キーボード、マウス、AC アダプタ、電源ユニット、ファン

## 消耗品について

- バッテリパックや乾電池等の消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならびに交換となります。
- 一般的にバッテリパックは、300 ～ 500 回の充放電で寿命となります。（温度条件や使用環境によって異なります。）

## 24 時間以上の連続使用について

- 本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

## 注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
本製品は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

## 無線 LAN について（無線 LAN（IEEE 802.11n ドラフト準拠、IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠）搭載機種の場合）

2.4 DS/OF 4

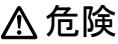
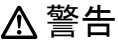
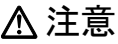
・ 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DS-SS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。
・ 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
  (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
  (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
  連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」
・ 本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
・ パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠（5GHz 帯）では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠（2.4GHz 帯）では見通し半径 25m 以内、IEEE 802.11n ドラフト準拠では見通し半径 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
・ IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
・ 本製品に内蔵の無線 LAN を 5.2/5.3GHz 帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。
・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。
また、バッテリ残量が不充分な場合、バッテリ未搭載で AC アダプタを使用している場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質＜鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテルの 6 物質＞の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。
本パソコンにおける特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。
http://www.fmworld.net/fmv/jmoss/

## 青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやりとりをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。
特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。
・ アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
・ 出会い系サイト
・ 暴力残虐画像を集めたサイト
・ 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
・ 犯罪を助長するようなサイト
・ 毒物や麻薬情報を載せたサイト
サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。
有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術で、100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをおすすめします。

「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の 2 つの方法があります。
「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。
1. パソコンにフィルタリングの機能を持つソフトウェアをインストールする。
2. インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用する。
FMV-BIBLO シリーズには、「i- フィルター」が用意されています。
ご利用期間 30 日間の体験版となっていますので、まだご利用でないお客様は、ぜひお試しください。
これらのソフトウェアのインストール方法やご利用方法については、それぞれのソフトウェアの説明書またはヘルプをご確認ください。
利用開始から 30 日間を超えてご利用になる場合は、継続利用の登録（有償）を行うか、市販のフィルタリングソフトウェアをご購入の上、ご利用ください。
なお、ソフトウェアやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルタ」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認の上、ご利用されることをおすすめします。

［参考情報］
・ 社団法人 電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料
  「パソコン・サポートとつきあう方法」
・ デジタルアーツ株式会社 (i- フィルター提供会社)
  「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

## 警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。 |
| ⚠警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。 |

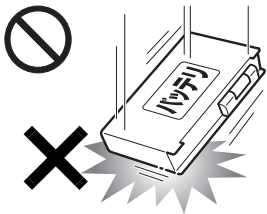
また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

| | |
|---|---|
| ⚠ | △で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。 |
| ⃠ | ⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。 |
| ● | ●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。 |

## 安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。
また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■バッテリパック

### ⚠危険

**バッテリパックには以下のことをしないでください。**

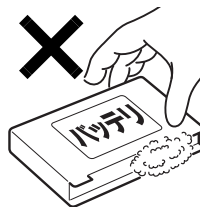
破裂・液漏れ・火災・けが・周囲を汚す原因となります。

- 指定された充電方法以外で充電する
- 分解や改造
- 加熱したり、火の中に入れる
- 熱器具に近づける
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置する
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与える
- 先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加える
- ショートさせる
- 端子部分をぬらしたり、水の中に入れる
- 金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に携帯、保管する

バッテリパックは、落下等の衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって、発熱、発火、破裂に至ることがあります。バッテリパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。

**必ず本製品に添付のバッテリパックを使用してください。寿命などでバッテリパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。**

指定以外のバッテリパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。

### ⚠警告

**バッテリパックが液漏れし、漏れ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。**

失明など障害の原因となります。

液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。

皮膚に障害を起こす原因となります。

## ⚠注意

**バッテリ稼働時間が短くなった場合には、純正の新しいバッテリパックと交換してください。**

バッテリパックは消耗品です。稼働時間が短くなったバッテリパックでは、内部に使用されている電池の消耗度合いにバラツキが発生している可能性があり、そのまま使用し続けると、障害が発生することがあります。

**バッテリパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。**

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

バッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミと一緒に火中に投じられると破裂のおそれがあります。

■パソコン本体、ＡＣ アダプタ

## ⚠警告

**本製品を火中に投入、加熱、あるいは端子をショートさせたりしないでください。**

発煙・発火・破裂の原因になります。

**本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。**

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

**パソコン本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。**

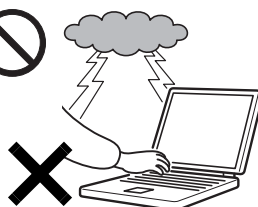
その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

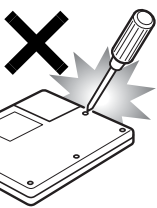
**本製品を落としたり、カバーなどを破損した場合は、パソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。**

その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

**雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。**

**落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。**

落雷による感電、火災の原因となります。

**各スロットやディスクトレイなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。**

感電・火災の原因となります。

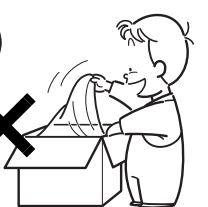
**本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。**

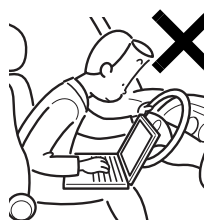
感電・火災の原因となります。

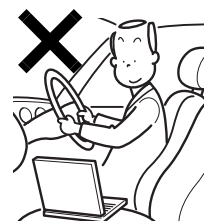
修理や点検などが必要な場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

**本装置を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持って、装置を持ち上げたり運んだりしないでください。**

装置の故障やけがの原因となることがあります。

持ち上げたり運んだりするときは、装置の底面あるいは装置中央の両脇を持ってください。

**梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。**

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。

**自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。**

安全走行を損ない、事故の原因となります。車を安全なところに止めてからお使いください。

**自転車やバイク、自動車などの運転中は、テレビや音楽を視聴しないでください。**

周囲の音が聞こえにくく、映像や音声に気をとられ交通事故の原因になります。また、歩行中でも周囲の交通に充分に注意してください。特に踏切や横断歩道ではご注意ください。

**取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。**

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

**拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外しのために、カバーを外す場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。また、作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。**

お子様が手を触れると、本体および本体内部の突起物でけがをしたり、故障の原因となります。

**パソコン本体や AC アダプタの温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。また、お子様が排気孔付近に近寄らないよう注意してください。**

低温やけどの原因になります。

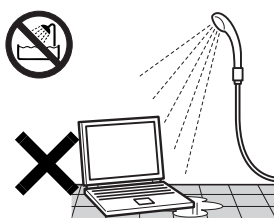
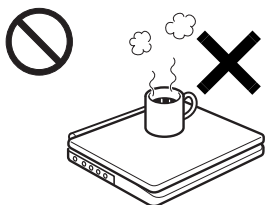
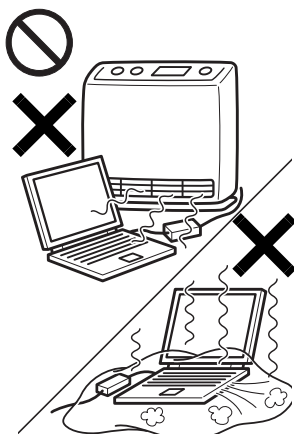
**本製品をご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。**

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

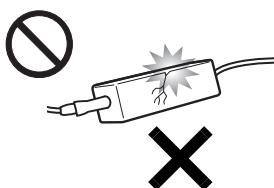
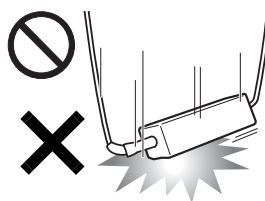
過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

また、本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。

**本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。**

火災の原因となります。

**本製品を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。**
感電・火災の原因となります。

**本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。**
水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。

**使用中のパソコン本体やACアダプタは、ふとんなどをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置いたりしないでください。また、排気孔などの開口部がある場合はふさがないでください。**
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

**矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源等）に接続しないでください。**
火災の原因となることがあります。

**添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源コードを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。**
感電・火災の原因となります。

**ACアダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。**
感電・火災の原因となります。

**ACアダプタ本体を落下させたり、強い衝撃を与えないでください。**
カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障・感電・火災の原因となります。
修理は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

**清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。**
故障・火災の原因となります。

## ⚠注意

**本製品の上に重いものを置かないでください。**
故障・けがの原因となることがあります。

**本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。**
感電・火災の原因となることがあります。

**本製品を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内など、温度が高くなるところで使用したり、置いたりしないでください。**
感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。

**排気孔付近に触れないでください。また、排気孔からの送風に長時間あたらないでください。**
火傷の原因となることがあります。

**振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。**
本製品が落ちて、けがの原因となります。

**本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10〜15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止を取るようにしてください。**

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因となることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の健康障害の原因となることがあります。

- 画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- 背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
- 手首や腕、肘は机やいすの肘かけなどで支えるようにする。
- キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるように使用する。

**本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。**

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

本製品はリチウム電池を使用しており、一般のゴミと一緒に火中に投じられると破裂のおそれがあります。

**本製品を移動する場合は、必ず AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。**

AC アダプタの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

**本製品を長期間使用しないときは、安全のため AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜き、パソコン本体から AC アダプタを取り外してください。バッテリパックや乾電池を取り外せる場合は、バッテリパックや乾電池も取り外してください。**

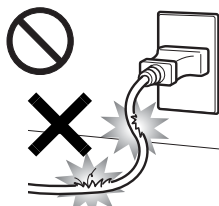
火災の原因となることがあります。

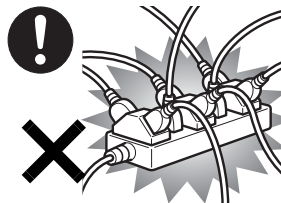
**液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で 15 分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で 15 分以上洗浄した後、医師に相談してください。**

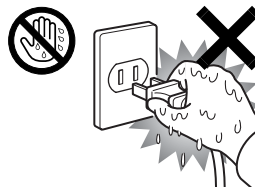
中毒のおそれがあります。

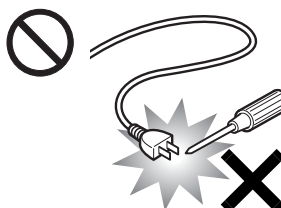
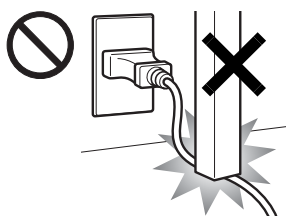
液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

## ■電源コード

### ⚠警告

**電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。**

火災・感電の原因となります。

**ACアダプタの電源プラグは、壁のコンセント（AC100V）に直接かつ確実にさし込んでください。また、タコ足配線をしないでください。**

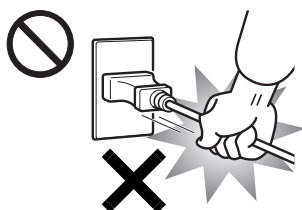
感電・火災の原因となります。

**ぬれた手で AC アダプタの電源プラグを抜き差ししないでください。**

感電の原因となります。

**ACアダプタの電源プラグに、ドライバーなどの金属を近づけないでください。**

火災・感電の原因となります。

**ACアダプタのケーブルは、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを乗せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。**

感電・火災の原因となります。

**ACアダプタ本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。**

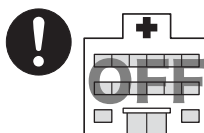
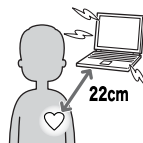
電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となります。

**ACアダプタの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。**

電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

**ACアダプタや電源プラグはコンセントからときどき抜いて、コンセントとの接続部分およびACアダプタと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。**

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因になります。1 年に一度は点検清掃してください。

■無線について

## ⚠警告

**無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジー、FeliCa ポートの注意（搭載機種のみ）**

**次の場所では、パソコン本体の電源を切るか、無線通信機能をオフにしてください。**

無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

- 病院内や医療用電子機器のある場所。
  特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
- 航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- 自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- 満員電車の中など付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がある場所

**心臓ペースメーカーの装着部位からは 22cm（FeliCa ポートは 12cm）以上離してください。**

電波によりペースメーカーの動作に影響を及ぼす原因となります。

■ヘッドホン

## ⚠注意

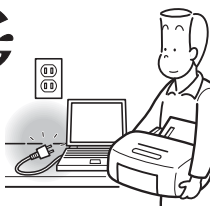
**ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。**

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

**電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。**

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

■周辺機器

## ⚠ 警告

**本製品を設置したり、周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。**

AC アダプタや電源コードがコンセントにつながっている場合は、それらをコンセントから抜いてください。
感電の原因となります。

**周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。**

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

## ⚠ 注意

**PCカードやExpressCardの使用終了直後は、PCカードやExpressCardが高温になっていることがあります。**

**PCカードやExpressCardを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。**

火傷の原因となることがあります。

**光学式マウスの底面の光を直接見ないでください。（添付機種のみ）**

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。

**電話回線ケーブル（モジュラーケーブル）の取り外しや接続を行うときは、モジュラーコンセントの端子部分に触れないでください。（モデム搭載機種のみ）**

電話がかかってくると電話回線上に電圧がかかるため、電話回線ケーブルを抜いたときにモジュラーコンセントの端子に触れると感電の恐れがあります。

**メモリ（拡張 RAM モジュール）の取り付け／取り外しをおこなうときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。**

けがの原因になります。

**パソコン本体の電源が入っているときや、AC アダプタやバッテリパックが装着されているときは、メモリ（拡張 RAM モジュール）のカバーを外さないでください。**

感電の原因になります。

■レーザの安全性について

□CD/DVD ドライブの注意

本製品に搭載されているCD/DVDドライブは、レーザを使用しています。
（CD/DVDドライブ搭載機種のみ）

クラス 1 レーザ製品

CD/DVDドライブは、クラス1レーザ製品について規定している米国の保健福祉省連邦規則（DHHS 21 CFR）Subchapter Jに準拠しています。
また、クラス1レーザ製品の国際規格である（IEC 60825-1）、CENELEC規格（EN 60825-1）および、JIS規格（JISC6802）に準拠しています。

## ⚠ 警告

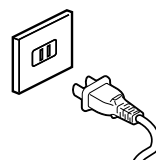
**本製品は、レーザ光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。**

- **光源部を見ないでください。**
  CD/DVD ドライブのレーザ光の光源部を直接見ないでください。
  また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザ光線が装置外にもれた場合は、レーザ光線を覗きこまないでください。
  レーザ光線が直接目に照射されると、視力障害の原因となります。
- **お客様自身で分解したり、修理・改造しないでください。**
  レーザ光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因となります。

## 本書の表記

### ■電源プラグとコンセント形状の表記について

本パソコンに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

### ■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| 記号 | 意味 |
|---|---|
| 重要 | お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
| POINT | 操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。 |
| → | 参照ページや参照マニュアルを示しています。 |

### ■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【Fn】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Fn】＋【/】キーなど

### ■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
　また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

・DVD のドライブ名を、［DVD ドライブ］または［CD/DVD ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD/DVD ドライブ]:¥setup.exe

### ■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
　　↓
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

### ■BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「：」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語（Language）」の項目を「日本語（JP）」に設定します。
　　↓
「メイン」－「言語（Language）」：日本語（JP）

### ■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

| 製品名称 | 本文中の表記 | | |
|---|---|---|---|
| FMV-BIBLO LOOX U/B50, U/B50N | 本パソコン／パソコン本体 | | |
| Windows Vista® Home Premium | Windows Vista Home Premium | Windows Vista | Windows |
| Microsoft® Office Personal 2007 | Office Personal 2007 | | |

■お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2008 年 8 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→「お問い合わせ先について」）。

## 警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

## ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

## 商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

# 1. 必ずお読みください

## 疲れにくい使い方

**パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意し、疲れにくい状態で操作しましょう。**

- ●ブラインドやカーテンで、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないようにする。
- ●作業中は、1時間に10分～15分程度の休憩をとる。
- ●肘かけや背もたれのついた椅子を使用し、座面の高さを調節する。
- ●パソコンの周りや足元には、充分なスペースを確保する。

## 使用上のお願い

パソコンは精密機器です。設置場所と使用環境に注意してご利用ください。取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となることがあります。
内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

### パソコン本体の使用環境

- ●パソコン本体の使用環境は、温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時）、温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時）です。動作時、非動作時に関わらず、結露しないようにご注意ください。
  結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動した時に起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ●パソコン本体のそばで喫煙すると、タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、CPUファンなどの機能を低下させる可能性があります。
- ●腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所で使用すると、パソコン本体が腐食する可能性があります。
- ●パソコン本体には静電気に弱い部品が使用されています。静電気の発生しやすい場所では使用しないでください。また、使用する前には金属質のものに触れて、静電気を逃がしてください。
- ●パソコン本体およびACアダプタは堅い机の上などに置くようにしてください。ふとんの上など熱がこもりやすい場所に置くと、パソコンやACアダプタ表面が高温になることがあります。
- ●パソコンおよびACアダプタは、使用中に熱を持つことがあります。そのため、長時間同じ場所に設置すると、設置する場所の状況や材質によっては、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがあります。ご注意ください。
- ●電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいかぶさる物を置かないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ●ほこりの多い環境では使用しないでください。ファンにほこりが詰まり、放熱が妨げられ、故障の原因となる場合があります。
- ●吸気孔や通風孔がほこりなどにより目詰まりすると、空気の流れが悪くなり、CPUファンなどの機能を低下させる可能性があります。定期的にほこりなどを取り除いてください。
- ●吸気孔や排気孔をふさがないでください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- ●排気孔の近くに物を置いたり、排気孔の近くには手を触れないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物や手が熱くなることがあります。
- ●台所などの油を使用する場所の近くでは、パソコンを使わないでください。油分がパソコン内に入ってCPUファンなどに付着し、放射性能を低下させる可能性があります。

### パソコン本体取り扱い上の注意

- ●衝撃や振動を与えないでください。
- ●操作に必要のない部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。
- ●マニュアルに記述されているところ以外は絶対に開けないでください。
- ●電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にしない設定にした場合は、パソコン本体の液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となることがあります。
- ●磁石や磁気ブレスレットなど、磁気の発生するものをパソコン本体や画面に近づけないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となったり、保存しているデータが消えてしまうおそれがあります。
- ●水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。故障の原因になる可能性があります。
- ●パソコン本体を立てたり傾けて置かないでください。パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- ●パソコン本体は昼夜連続動作（24時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。

## パソコンの温度上昇に関して

- 長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じることがありますが、故障ではありません。
これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温かくなるためです。
- ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- 使用するソフトウェアによっては、パームレスト部（手をのせる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。

## パソコン内部からの音に関して

- パソコン本体内部からは、パソコン本体内部の熱を外に逃がすためのファンの音や、ハードディスクドライブがデータを書き込む音などが聞こえることがあります。これらは故障ではありません。

## パソコンを持ち運ぶ場合の注意

- 必ずパソコンの電源を切ってください。電源が入ったまま持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も、5 秒ほど待ってから動かしてください。衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体に接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。
- パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手でつかんでください。
- パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- パソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶ場合には、次のような点に注意してください。
  - ・パソコン本体の背面を下側にして、かばんなどに入れてください。また、AC アダプタをいっしょに入れて持ち運ぶと、AC アダプタでパソコン本体を傷つけたり、破損したりするおそれがあります。
  - ・ワイヤレススイッチは、かばんなどにいっしょに入れたものが触れて、切り替わってしまうことがあります。電波を発信してはいけない場所に移動する場合は特にご注意ください。
- パソコン本体に PC カード、ExpressCard、または SD メモリーカード、コンパクトフラッシュカードなどのメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。

## 液晶ディスプレイの取り扱い上の注意

- 液晶ディスプレイを回転させる際は、90 度に開いた状態で回転させてください。無理に回転させると破損する場合があります。
- 液晶ディスプレイの開閉は、衝撃を与えないようにゆっくりと行ってください。
- 液晶ディスプレイを開くときは、無理に大きく開けないでください。
- 液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押したりしないでください。
- 液晶ディスプレイにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- 液晶ディスプレイとキーボードの間に、物をはさまないでください。

## 液晶ディスプレイのお手入れ

- 液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。
液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きをしてください。
水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販クリーナーは以下の成分を含んだものがあり、画面の表面コーティングを傷つける場合がありますので、ご使用を避けてください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

## 雷についての注意

雷が鳴り出した時は、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。
落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。
また、安全のため、避雷器の設置をお勧めします。
落雷には、直撃雷と誘導雷の 2 種類ありますが、パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入する

のが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、テレビのアンテナ線、外部機器との接続ケーブル、電話線（モジュラーケーブル）、LAN ケーブルなどからの誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。
直撃雷は避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できますが、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがありますので、ご了承ください。
場合によっては、パソコン本体だけでなく、周辺機器などが故障することもあります。落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

### パスワードの取り扱いについて

- BIOS のパスワードや Windows のパスワードを設定するときは、設定したパスワードを忘れないよう注意してください。パスワードを忘れると、パソコンが使えなくなり修理が必要となります。

## ストラップの使用方法について

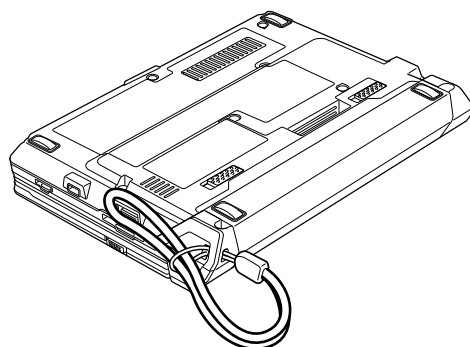
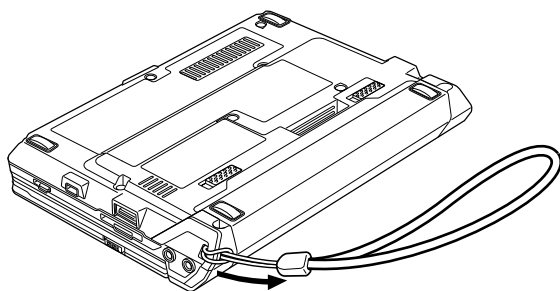
**POINT**

- 本製品にはストラップは添付されていません。市販のストラップをご使用ください。

### ストラップをご使用になる上での注意

- ストラップをご使用になる場合は、必ずお使いのストラップの耐荷重などをご確認の上ご使用ください。
- ストラップを持って振り回したりしないでください。ストラップはあくまで緊急時の危険度を下げるためだけのものです。落下等による故障に対する保証は出来ませんのでご了承ください。

### ストラップの取り付け方

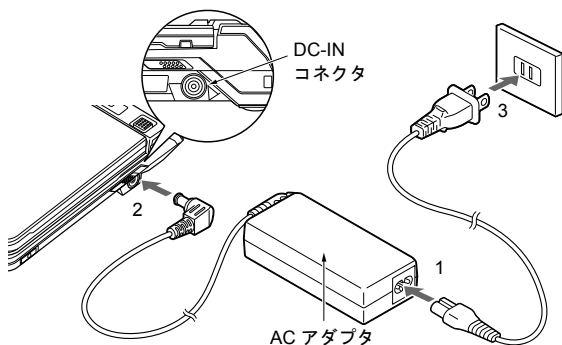
**1** 本体下面左側のストラップ用の穴に、図のようにストラップを通します。

**2** ストラップを図の方向に引っ張ります。

# 電源を入れる

## 注意事項

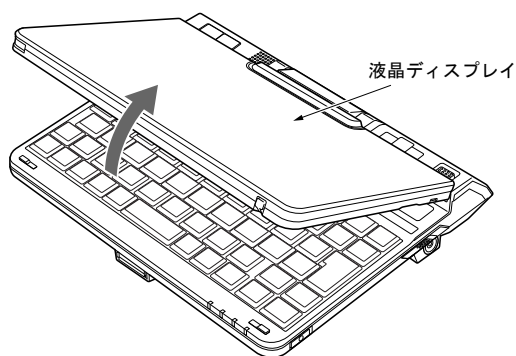
● ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどは行わないでください。
● 電源を入れて本製品が起動するまでは、むやみにキーボードやスティックポイントに触らないでください。正常に起動できなくなる場合があります。
● 電源を入れてから、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
● 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
● 電源を入れても画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。
  ・電源ランプが点灯しているか確認してください。点灯している場合は、キーボードかポインティングデバイスに触れてください。また、【Fn】+【:】キーまたは、【Fn】+【/】キーを押して、明るさを調整してください。点滅している場合は、電源スイッチをスライドさせて動作状態にしてください。消灯している場合は、電源を入れてください。
  ・バッテリ運用している場合は、状態表示 LED のバッテリ残量表示を確認してください。本パソコンご購入時やバッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください。

## 電源の入れ方

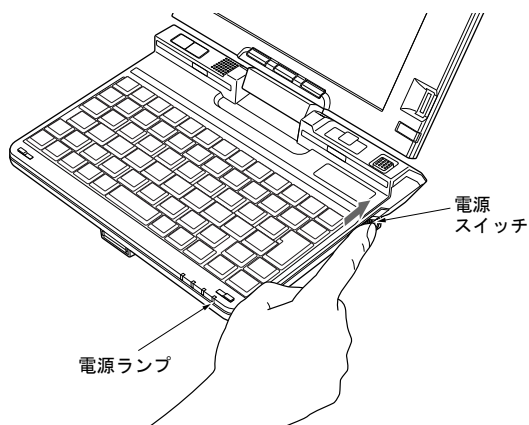
**1** AC アダプタを接続します。

AC アダプタに AC ケーブルを接続し（1）、パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します（2）。その後、プラグをコンセントに接続します（3）。

（これ以降のイラストは機種により異なります）

**2** 液晶ディスプレイを開きます。

液晶ディスプレイ上部の中央に手を添えて持ち上げます。

**3** 電源スイッチをスライドさせます。

電源ランプなどが点灯します。

ご購入後、初めて電源を入れると、Windows のセットアップ画面が表示されます。その場合は、「セットアップ」（→ P.19）をご覧になり、操作を続けてください。

# セットアップ

**初めて電源を入れた後に行うWindowsの初期設定(Windowsセットアップ)について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。**

次の「注意事項」をよくお読みになり、電源を入れてWindowsセットアップを始めます。

## 注意事項

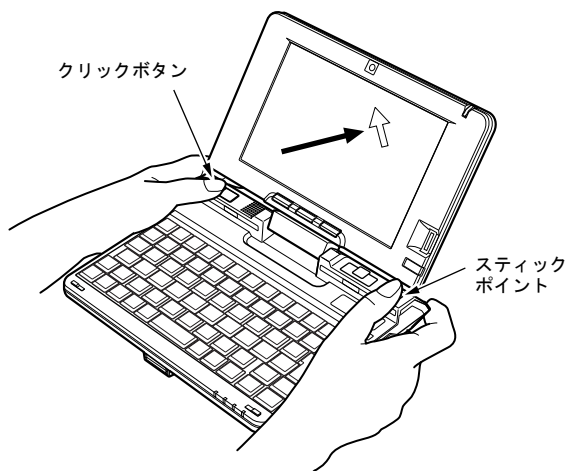
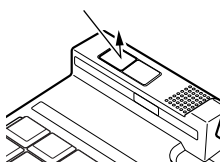
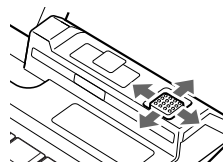
●Windowsセットアップを行う前は、次の点にご注意ください。
・周辺機器を取り付けないでください。
・LANケーブルを接続しないでください。
Windowsセットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示される場合があります。
上記の項目は、Windowsセットアップが完了してから行ってください。

●Windowsセットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windowsセットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから、キーまたはポインティングデバイスで操作してください。

●セットアップ中は、不用意に電源を切らないでください。

●Windowsセットアップが進められなくなったときは、「セットアップで困ったときは」(→P.20)をご覧ください。

## スティックポイントの使い方

セットアップでは、スティックポイントを使用します。本体右上のスティックポイントでマウスポインタを移動させ、本体左上のクリックボタンでクリック操作を行います。

・クリック

・ポインタ移動

## Windowsセットアップ

**1** ACアダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます(→P.18)。
「ライセンス条項をお読みになってください」画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。

**POINT**

▶「ライセンス条項をお読みになってください」画面が表示される間、画面が黒くなったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

**2** 「ライセンス条項」をよく読み、2ヶ所の「ライセンス条項に同意します」にチェックをつけて、「次へ」をクリックします。
「ユーザー名と画像の選択」が表示されます。

**3** ユーザー名と必要に応じてパスワードを入力し、お好みの画像を選択して、「次へ」をクリックします。
「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されます。

**POINT**

▶ ユーザー名とパスワードは、半角英数字(a〜z、A〜Z、0〜9)で入力します(%などの記号は入力しないでください)。半角英数字(a〜z、A〜Z、0〜9)で入力しないと、パソコンが正常に動作しなくなる可能性があります。
▶ パスワードでは大文字/小文字が区別されます。

**4** お好みのデスクトップの背景を選択し、「次へ」をクリックします。
「ありがとうございます」と表示されます。

**POINT**

▶ コンピュータ名は、ここでは変更しません。セットアップ完了後に変更してください。

**5** 「開始」をクリックします。
そのまましばらくお待ちください。
手順3でパスワードを設定した場合、パスワード入力画面が表示されます。

**6** 手順 3 で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

**POINT**

- 画面右下の通知領域に警告が表示される場合があります。これは、ウイルス対策ソフトをインストールし、パターンファイルを最新の状態にすることで表示されなくなります。
  ウイルス対策ソフトのインストールは、Windows セットアップが完了後、『製品ガイド』（PDF）の「セキュリティ」をご覧になり行ってください。

**7** 表示されている「必ず実行してください」ウィンドウを確認し、「実行する」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。

**8**「続行」をクリックします。
パソコンの初期設定が始まります。そのまましばらくお待ちください。

**9** ハードウェア診断が始まります。「保証期間表示」の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

**POINT**

- 「診断センターにお問い合わせください」の画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

**10** 保証開始日を示した画面が表示されます。
この保証開始日を保証書に書き写してください。保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（なお、保証開始日は本製品の電源を最初に入れた日になります。保証書自体は大切に保管ください）。
保証書への書き写しが終わったら次の手順に進みます。

**11**「閉じる」をクリックします。

**12** 次の手順に進んで良ければ「いいえ」をクリックします。
もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。

**13**「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。

**14** 手順 3 でパスワードを設定した場合は、そのパスワードを入力し、「→」をクリックします。

これで、Windows セットアップが完了しました。

## セットアップ後

セットアップが終わったら、パソコンを使い始める前に、次の操作を行ってください。

■セキュリティ対策

ウイルス対策や不正アクセスに関する対策など、お使いのパソコンについてのセキュリティ対策は、お客様自身が責任をもって行ってください。
詳しくは、『製品ガイド』（PDF）の「セキュリティ」をご覧ください。

## セットアップで困ったときは

セットアップ中に動かなくなった、など困ったことがあったときには、次の項目をご覧ください。

□Windows セットアップが進められなくなった

●電源スイッチを 4 秒以上スライドし続けて、本パソコンの電源を一度切り、後でセットアップをやり直してください。

●途中で電源を切ると、次に電源を入れたときに再起動を繰り返したり、「システムのインストールが完全ではありません」などのメッセージが表示され、Windows が起動しなくなることがあります。この場合は、「FUJITSU」のロゴが表示されているときか、またはメッセージが表示されているときに、電源スイッチを 4 秒以上スライドし続けて強制的に電源を切り、リカバリ操作を行ってください。

□画面が見にくい

●液晶ディスプレイの角度を見やすい位置に調節します。

●次のキーを何度か押して輝度を調節します。
【Fn】+【:】キーを押すと、表示が暗くなります。
【Fn】+【/】キーを押すと、表示が明るくなります。

## 電源を切る

### 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- 電源を切る際、ノイズが発生することがあります。その場合は、音量を下げてお使いください。
- 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
  閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

### 電源の切り方

「スタート」ボタン→ [ボタン] の [▶] →「シャットダウン」の順にクリックします。Windows が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LED の電源ランプが消えます。

**POINT**

- 上記操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
  1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
  2. 表示された画面右下にある [ボタン] をクリックし、Windows を終了します。

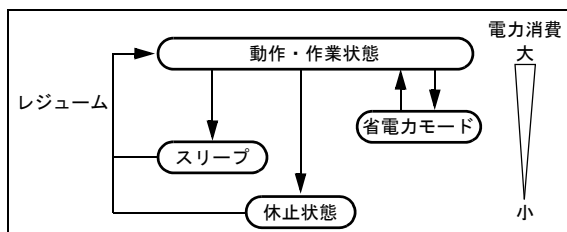
  それでも電源が切れない場合は、電源スイッチを 4 秒以上スライドし続けて強制的に電源を切ってください。
- 「スリープ」または「休止状態」をクリックすると、本パソコンが省電力状態になります。詳しくは、「省電力機能を使う」（→ P.21）をご覧ください。
- この後、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

# 2. 必要に応じてお読みください

## 省電力機能を使う

**ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スリープ状態になるよう設定されています。**

### スリープ／休止状態／省電力モード

スリープ、休止状態または省電力モードを使用すると、Windows を終了しないで節電できます。

- **スリープ**
  パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。
- **休止状態**
  メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。そのため、スリープよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。
  ご購入時の設定では、休止状態は無効に設定されています。休止状態にするためには、BIOSセットアップメニューで休止状態を有効に設定する必要があります。BIOSセットアップメニューでの設定変更の方法は、「BIOSセットアップメニューの設定」（→P.26）をご覧ください。ただし、休止状態にする場合は「休止状態の注意事項」（→P.22）に記載されている注意事項をよくお読みいただき、ご理解のうえご使用ください。
- **省電力モード**
  Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることができます。省電力モードは、スリープや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスリープや休止状態ほどは節約できません。

## 注意事項

### ■共通の注意事項

- ●ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。詳しくは「省電力の設定」(→ P.23)をご覧ください。
- ●パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- ●スリープまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- ●接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- ●レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- ●次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
  - ・Windows の起動処理中または終了処理中
  - ・パソコンが何か処理をしている最中(プリンタ出力中など)、および処理完了直後
  - ・ハードディスク、またはフロッピーディスクにアクセス中
  - ・オートラン CD-ROM(セットすると自動で始まる CD-ROM)を使用中
  - ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - ・CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
  - ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
  - ・ネットワークで通信中
  - ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- ●周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
  『製品ガイド』(PDF)→「ハードウェア」、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ●別売の LAN カードをお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源オプション」ウィンドウで、選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリックし、「プラン設定の編集」ウィンドウの各項目を「なし」に設定してください。
- ●CD や DVD を読み込み中にスリープや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ●ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム(Wakeup on LAN)を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スリープまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
  1. 「電源オプション」ウィンドウを表示します(→ P.23)。
  2. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
     「プラン設定の編集」ウィンドウが開きます。
  3. 「コンピュータをスリープ状態にする」を 20 分以上に設定します。
  4. 「変更の保存」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

**POINT**

- ▶ **設定値が20分より短いと、パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。**

### ■休止状態の注意事項

- ●コンパクトフラッシュカードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。作成中のデータが失われる場合がありますので、必ず作業を終了し、周辺機器を取り外してから休止状態にしてください。
- ●ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

### ■省電力モードの注意事項

- ●省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
  省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
  - ・CF(コンパクトフラッシュ)カードスロット
  - ・SD メモリーカードスロット
  - ・LAN
- ●省電力モードにするとコンパクトフラッシュカードが無効になる設定にしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず CF(コンパクトフラッシュ)カードスロットからコンパクトフラッシュカードを抜いてください。
  コンパクトフラッシュカードを使う場合、省電力モードから通常モードに戻してから再度セットしてください。

## 省電力の設定

### ■設定を変更する

ご購入時には、一定時間パソコンを操作しないと自動的にスリープになるように設定されています。
省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更するには、「コントロールパネル」の「電源オプション」ウィンドウで行います。
CD や DVD にデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

**1** **「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

**2** **「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

続けて「「電源オプション」ウィンドウについて」(→ P.23)をご覧になり、設定してください。

### ■「電源オプション」ウィンドウについて

「電源オプション」ウィンドウでは、電源プランを変更したり、スリープになるまでの時間を設定したりすることができます。
また、パソコン本体の電源スイッチをスライドさせたときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能を変更することもできます。

**□電源プランを変更する**

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。お使いになる状況に適した電源プランをチェックしてください。
なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各プランの設定を変更することができます。

**POINT**

- 「Windows モビリティセンター」を使って電源プランを変更できます。
  1. 「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
  2. 「モバイルコンピュータ」ウィンドウの左下にある「共通で使うモビリティ設定の調整」をクリックします。
     「Windows モビリティセンター」ウィンドウが表示されます。
  3. 「バッテリの状態」で電源プランを選択します。
  - 「Windows モビリティセンター」では、パソコンをいつもとは違う場所で使用するときなどに、お使いになる状況に合わせた各種設定を1つの画面ですべて変更することができます。
- 変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。
  1. 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
  2. 「このプランの既定の設定を復元する」をクリックします。
  3. 「はい」をクリックします。
  4. をクリックします。

**□スリープになるまでの時間を変更する**

スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

**1** **「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。**
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。

**2** **「コンピュータをスリープ状態にする」の設定を変更します。**

**3** **「変更の保存」をクリックします。**

**□電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する**

パソコン本体の電源スイッチをスライドさせたときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

**1** **「電源オプション」ウィンドウの左にある「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。**

**2** **電源ボタンとカバーの設定の項目を変更します。**

**POINT**

- パソコンがスリープから復帰するときに、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすることで、本パソコンのセキュリティを高めることができます。
  1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで「続行」をクリックします。
     標準ユーザーで Windows にログオンしている場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
  3. 「パスワードを必要とする（推奨）」をチェックします。

**3** **「変更の保存」をクリックします。**

## スリープまたは休止状態にする

ご購入時には、各項目の動作はスリープに設定されています。電源スイッチをスライドさせたり、液晶ディスプレイを閉じて休止状態にする場合には、省電力機能の設定を変更してください。詳しくは、「省電力の設定」(→ P.23) をご覧ください。スリープ/休止状態にするには、次の方法があります。

■スタートボタンを使う

1 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2 「スタート」ボタン → [ボタン] の [▶] →「スリープ」または「休止状態」の順にクリックします。
しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

**POINT**

- 画面上の「電源」ボタンをクリックしてもスリープや休止状態にすることができます。ご購入時には、画面上の「電源」ボタンはスリープに設定されています。

■電源スイッチを使う

ご購入時には本体の電源スイッチの省電力機能はスリープに設定されています。設定を変更する場合は、「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」(→ P.23) をご覧ください。

1 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源スイッチをスライドさせます。
しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

**POINT**

- 電源スイッチを4秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを4秒以上スライドさせると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

■液晶ディスプレイを閉じる

ご購入時には液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能はスリープに設定されています。設定を変更する場合は、「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」(→ P.23) をご覧ください。

**重 要**

- 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

**POINT**

- 「電源スイッチをスライドさせたときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能の設定を変更する」(→ P.23) で、「カバーを閉じたときの動作」を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスリープや休止状態にしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ハードディスクの音が止まったことを確認してください。スリープや休止状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- 液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源スイッチをスライドさせて、スリープや休止状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスリープや休止状態にならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

## スリープまたは休止状態からのレジューム

レジューム後、しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

■電源スイッチをスライドさせる

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。
スリープからレジュームする場合は電源ランプが点滅していることを確認してください。

■液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

**POINT**

- 電源スイッチを4秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを4秒以上スライドさせると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。
- 画面がデスクトップ画面に戻るまでスティックポイントやマウスの操作はしないで下さい。

### ■LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN）

他のコンピュータからこのパソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。無線LANをお使いの場合、Wakeup on LAN機能はお使いになれません。

なお、「LAN着信によるレジューム」の設定をしているときは、スリープまたは休止状態中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下でWakeup on LAN機能を使用する場合は、次のように設定してください。

1. **管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。**
2. **「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。**
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
3. **「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。**
   「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。
4. **「続行」をクリックします。**
   「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
   「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
5. **「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**
6. **「Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
7. **「電源の管理」タブをクリックします。**
8. **次の 2 つの項目をチェックします。**
   ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
   ・このデバイスで、コンピュータのスリープ状態を解除できるようにする
9. **「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。**

## 省電力モードの設定

（画面は機種や状況により異なります）

### ■概要

Windows が起動しているときに「省電力ユーティリティ」を起動すると、省電力モードになり消費電力を節約することができます。

省電力モードでは、次の機能により消費電力が節約されます。

●CF（コンパクトフラッシュ）カードスロットおよび有線 LAN を無効にする
●無線 LAN を無効にする
●SD メモリーカードスロットを無効にする
●画面の明るさを暗くする

### ■省電力モードの設定

Fn ボタンを押した後にズームボタンを押すと、「省電力モード」←→「通常モード」へと順に切り替わります。

**POINT**

▶ 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューからも切り替えることができます。
  1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「モードの切り替え」をクリックします。
     モードの切り替えを示すウィンドウが表示されます。
  2. 「OK」をクリックします。
     「省電力モード」←→「通常モード」が切り替わります。

### ■省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定を変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更し、「OK」をクリックしてください。

**POINT**

▶ 設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

1. **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「設定画面 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックします。**
   「省電力ユーティリティ設定画面 - 省電力ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

## 「省電力ユーティリティ」の設定画面

（画面は機種や状況により異なります）

●CF カードスロット、LAN
　CF カードスロットおよび有線 LAN の設定をします。

●無線 LAN
　無線 LAN の設定をします。

●SD カードスロット
　SD カードスロットの設定をします。

●ディスプレイ
　ディスプレイの設定をします。

●「省電力モードで起動する際にメッセージを表示する」
　□ を ☑ にすると、省電力モードのまま Windows の電源を切って再び Windows を起動したときに、メッセージを表示します。

●「切替時に確認メッセージを表示する」
　□ を ☑ にすると、省電力モードの通常モードの切り替えのときに、メッセージを表示します。

●「モード切替に失敗した際にメッセージを表示する」
　□ を ☑ にすると、省電力モードの通常モードの切り替えに失敗した場合、メッセージを表示します。

●「デバイスの状態を初期化」ボタン
　ご購入時の状態に戻します。

## BIOS セットアップメニューの設定

ご購入時には、休止状態は「使用しない」に設定されています。休止状態を使用する場合は、次の方法で休止状態を「使用する」に設定してください。

**重 要**

▶ 休止状態にする場合の注意事項

・コンパクトフラッシュカードを取り外してください
　コンパクトフラッシュカードを接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、接続しているカードに正常にアクセスできなくなる可能性があります。この場合、コンパクトフラッシュカードの中に保存されているデータは再起動することでアクセス可能になりますが、作業中のデータは失われます。休止状態に移行する前に必ず作業を終了し、コンパクトフラッシュカードを取り外してください。

・コンピュータが休止状態になるまでの時間は「なし」のままご使用ください。
　コンピュータが休止状態になるまでの時間を変更している場合は、次の手順で「なし」に設定してください。
　ご購入時は「なし」に設定されています。
　1. 「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」→「プラン設定の変更」→「詳細な電源設定の変更」の順にクリックします。
　2. 「スリープ」→「次の時間が経過後スリープする」を選択し、「バッテリ駆動」と「電源に接続」をいずれも「なし」に設定して「OK」をクリックします。なお、設定時間を短くしていくと「なし」に設定することができます。

・ハイブリッドスリープは「オフ」のままご使用ください
　ハイブリッドスリープを「オン」にしている場合は、次の手順で「オフ」に設定してください。
　ご購入時は「オフ」に設定されています。
　1. 「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」→「プラン設定の変更」→「詳細な電源設定の変更」の順にクリックします。
　2. 「スリープ」→「次の時間が経過後スリープする」を選択し、「バッテリ駆動」と「電源に接続」をいずれも「オフ」に設定して「OK」をクリックします。
　なお、設定時間を短くしていくと「なし」に設定することができます。

**1** 作業を終了してデータを保存します。

**2** 状態表示 LED のディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。

**3** 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」(→P.21)をご覧ください。

**4** 【↓】または【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

**5** 【←】または【→】キーを押して「詳細」を選択します。

**6** 【↓】または【↑】キーを押して「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

**7** 【↓】または【↑】キーを押して「休止状態サポート」を選択し、【Enter】キーを押します。

**8** 【↓】または【↑】キーを押して「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。

**9** 「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押します。

**10** 【↑】または【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

**11** 「変更した内容を保存して終了しますか？」と聞かれたら、【←】または【→】キーを押して「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

パソコンが再起動します。

**重 要**

- 休止状態にするときは必ず周辺機器を取り外してください
  コンパクトフラッシュカードやプリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

## マルチモニタ機能を使う

このパソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。

**重 要**

- マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- マルチモニタ機能の注意
  - 2台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
  - セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
  - 液晶ディスプレイの全画面表示
  - 一部のスクリーンセーバー
  - 動画再生画面のフルスクリーン表示
  - アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
- 色数についての注意
  - プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
  - 「中」または「最高」に設定してください。

**POINT**

- マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。
- マルチモニタ使用時に外部ディスプレイでペンはお使いになれません。あらかじめマウスを接続して操作してください。

### マルチモニタの設定

**1** デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。

**2**「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。

**3**「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」が表示されます。

**4** 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。

**5**「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

**6**「プライマリデバイス」が「Notebook」、「セカンダリデバイス」が「PC モニタ」であることを確認します。

「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

**7**「適用」をクリックします。

「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

**8**「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます

## 表示するディスプレイを切り替える

このパソコンに外部ディスプレイを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。
ここでは、切り替え方法について説明しています。

### ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

#### ■1 つのディスプレイで表示する

- ●パソコン本体の液晶ディスプレイ
- ●接続した外部ディスプレイ

#### ■2 つのディスプレイで同時に表示する

- ●パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ

#### ■2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する

2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニタ機能を使う」（→ P.27）をご覧ください。

□リフレッシュレートについての注意

Windows を再起動すると、このパソコンでサポートしていないリフレッシュレートが外部ディスプレイに設定され、画面が正常に表示されないことがあります。そのときは、外部ディスプレイのリフレッシュレートを 85Hz 以下に再設定してください。

**重 要**

- ビデオCDやDVD-VIDEOなどの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。

**POINT**

- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイと外部ディスプレイでの同時表示はできません。
- Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
- プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、再起動を行うと液晶ディスプレイのみの表示になり、外部ディスプレイに画面が表示されなくなります。

## 「画面の設定」で切り替える

■1 つのディスプレイで表示する

**1** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。

**2**「画面の設定」をクリックします。

**3**「詳細設定」をクリックします。

**4**「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」タブをクリックします。

**5**「グラフィック プロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」ウィンドウが表示されます。

**6** 左の一覧から「ディスプレイ デバイス」をクリックし、「シングルディスプレイ」の一覧から表示するディスプレイを選びます。

**7** 表示するディスプレイを選択します。

**8**「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

**9**「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■2 つのディスプレイで同時に表示する

**1** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。

**2**「画面の設定」をクリックします。

**3**「詳細設定」をクリックします。

**4**「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」タブをクリックします。

**5**「グラフィック プロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」ウィンドウが表示されます。

**6** 左の一覧から「ディスプレイ デバイス」をクリックし、「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択します。

**POINT**

- 2 つのディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
  - ・プライマリ：ノートブック
  - ・セカンダリ：PC モニタ
- プライマリデバイス、セカンダリデバイスの解像度やリフレッシュレート等の詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

**7**「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

**8**「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

**POINT**

- 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。
  - ・何も表示されない場合
    何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【;】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  - ・正常に表示されない場合
    外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。
    1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「個人設定」をクリックします。
       「個人設定」ウィンドウが表示されます。
    2. 「画面の設定」をクリックします。
    3. 「詳細設定」をクリックします。
    4. 「モニタ」タブをクリックします。
    5. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。
       ウィンドウが表示された場合は、「OK」または「はい」をクリックしてください。
       別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切ったあと、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

### キーボードで切り替える

■外部ディスプレイに表示する

**1** 【Fn】キーを押しながら【;】キーを押します。

2 つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

**重要**

- プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「画面の設定」で切り替えてください。

**POINT**

- マルチモニタ機能は、キーボードによる切り替えではご使用になれません。「マルチモニタ機能を使う」（→P.27）をご覧になって設定を行ってください。

## 指紋認証について

### 指紋認証とは

ユーザー名やパスワードの入力を省略し、指紋センサーに指をスライドさせるだけで次のようなことができます。

- Windows のログオン

  Windowsのユーザーアカウントにログオンパスワードを設定しておくと、そのパスワードを知っている人以外はそのアカウントでWindowsにログオンすることができなくなります。しかしこの場合、Windows にログオンするたびにパスワードの入力をしなければなりません。

  指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけで Windows にログオンすることができるので、パスワードの入力を省略することができます。

- 省電力状態からの復帰

  省電力状態からパソコンが復帰するときにパスワードを設定しておくとセキュリティの向上に役立ちますが、パソコンが省電力状態から復帰するたびにパスワードの入力をしなければなりません。

  指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけで省電力状態からの復帰が完了するので、パスワードの入力を省略することができます。

- パスワードが設定されたスクリーンセーバーの解除

  スクリーンセーバーを解除する時にパスワードを設定しておくとセキュリティの向上に役立ちますが、スクリーンセーバーを解除するたびにパスワードの入力をしなければなりません。

  指紋認証を使えば、あらかじめ登録した指紋を認証させるだけでスクリーンセーバーを解除できるので、パスワードの入力を省略することができます。

- ID（ユーザー名）やパスワードを必要とするホームページへのログイン

  セキュリティが設定されたホームページにログインするために、ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報を入力しなければならない場合があります。

  指紋認証を使えば、特定のホームページに対してあらかじめログイン情報を記憶させておくことにより、指紋センサーに指をスライドさせるだけでこれらのホームページにログインすることができます。

  ログイン情報を入力する状況はホームページごとに異なり、ログイン情報をホームページ内に直接入力する場合と、入力専用の画面が表示される場合があります。どちらの場合でも指紋認証によるログインを行うことができます。

## 指紋センサーについての注意

- ●次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
  - ・指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
  - ・指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
  - ・泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
  - ・指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- ●次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面はときどき清掃してください。
  - ・指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
  - ・指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
  - ・指紋センサー表面が結露している
- ●指紋の登録失敗や認証失敗が頻出する場合は、指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。
- ●指紋センサーを清掃する際には、メガネ拭きなどの乾いたやわらかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。
- ●指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- ●長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまることがありますが、これらを取り除くときは、先のとがったものを使用しないでください。

## 指紋認証をお使いになる場合の注意

- ●本機能は画像に含まれる指紋の特徴をもとに照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- ●指紋の登録には同一の指で最低3回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。
- ●指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせた際に指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。
  - ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
  - ・指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
  - ・手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
  - ・手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
  - ・指が泥や油などで汚れている場合
  - ・太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
  - ・磨耗して指紋が薄くなった場合
  - ・指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
  - ・濡れたり、汗をかいたりしている場合
- ●センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。
- ●認証率はお客様の使用状況により異なります。
- ●各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- ●指紋が正常に読み取れなかったときや、一定時間内に認証されなかったときは、警告メッセージが表示されます。
- ●指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。当社では本機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

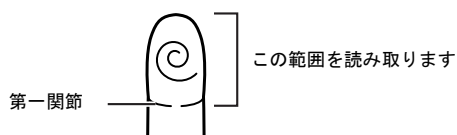
## 指のスライドのさせ方

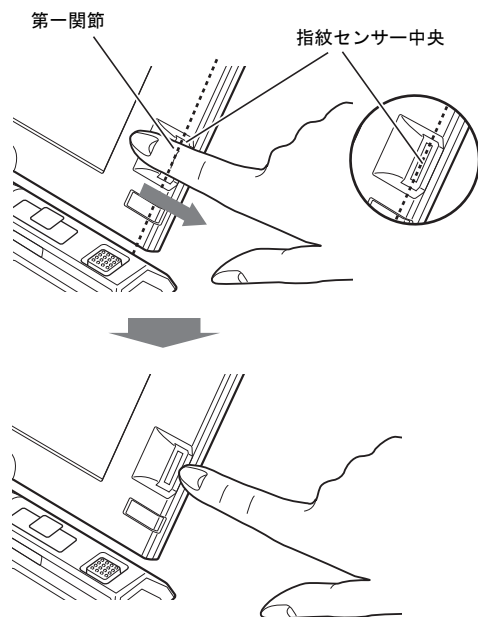
**POINT**

- サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で指のスライドのさせ方を動画でご覧になれます。

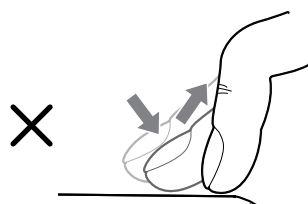
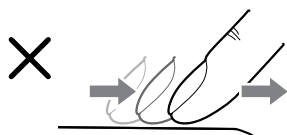
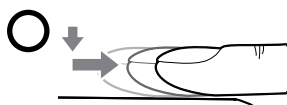
指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

**1** 操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。

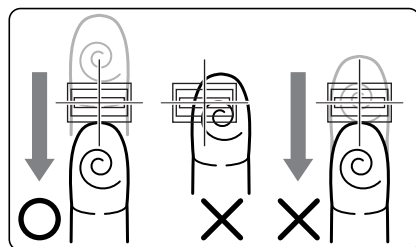
第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。

**2** 指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。

手全体を引くようにして、センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。

**重要**

- 指を突き立てたり、引っかけるようにスライドさせないでください

指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。必ず、指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。

- うまく認識されないときは

次の点に気を付けて操作してください。

・指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにする
・指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにする
・1 秒程度で通過するくらいの速さで、スムーズに動かす

なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。その際は、中心を通過させやすい指を登録してください。

- 指紋の読み取りがうまくいかない場合

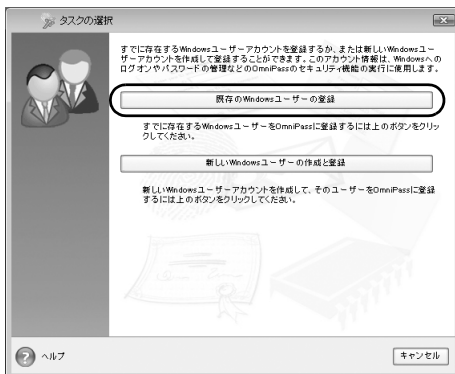
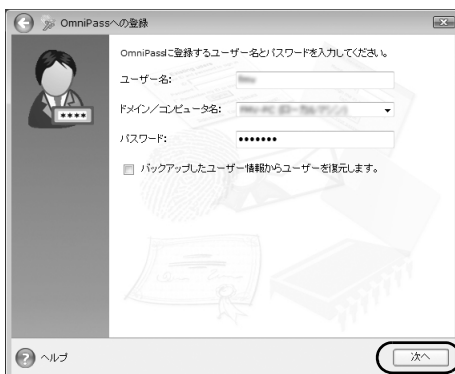
指紋センサーに指をスライドさせるときは、必ず指紋の入力画面の表示を確認し、指紋の入力が可能な状態になってから行ってください。指紋の入力画面が表示

される前から指を指紋センサーに置くと、指紋の認証に失敗する場合があります。
また、指のスライドが速すぎたり遅すぎたりした場合にも、正常に認識できないことがあります。画面のメッセージに従って、スライドの速さを調節してください。

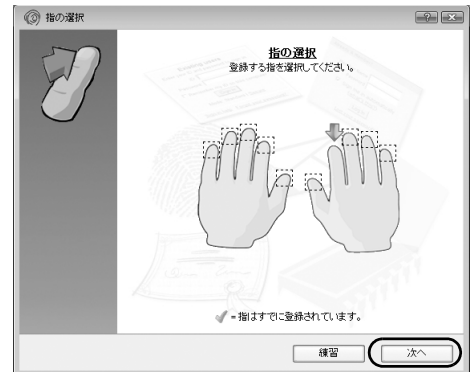
## 指紋を登録する

認証に必要な情報を登録します。

**1** 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「新規ユーザーの登録」の順にクリックします。

**2** 「既存の Windows ユーザーの登録」をクリックします。

**3** Windows にログオンするときと同じパスワードを「パスワード」に入力し、「次へ」をクリックします。
「ユーザー名」が Windows にログオンするときと同じことを確認してください。Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、「パスワード」は空欄のまま「次へ」をクリックします。

### 重 要

- Windows のログオンパスワードを設定していない場合セキュリティを強くするためには Windows のログオンパスワードもあわせて設定することをお勧めします。パスワードを設定しない場合は、誰でもそのユーザーで Windows にログオンし、個人の文書や画像などのデータファイルを開いたり削除したりできます。

**4** 認証で使用する指をイラストで選択し、「次へ」をクリックします。

### POINT

- 「練習」ボタンについて
  この画面にある「練習」ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をすることができます。指紋を登録する前に指紋の読み取りを練習されることをお勧めします。
  ウィンドウ左上の、または「完了」ボタンをクリックすると、指紋を登録する画面に戻ります。

**5** 指紋センサーに指をスライドさせ、指紋の採取を行います。
指紋が正常に読み取れた場合には、指紋の画像の下に表示されている数字が増加し、次の読み取り処理に進みます。読み取れなかった場合には、画面の上部にその理由が表示されます。

指紋の採取は 1 本の指について最低 3 回行います。指紋を識別するのに充分な情報が採取できたら、「指紋の確認」ウィンドウが表示されます。

**POINT**

- 指紋の読み取りがうまくいかない場合
  指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（→ P.32）をご覧ください。
- 指紋は正しく登録してください
  指紋の登録が正常に完了しても、指紋の読み取りが不完全なまま登録してしまうと、Windows のログオン時などの指紋認証に成功する可能性が低くなってしまいます。指紋を登録するときは、次の条件を満たすように、スライドがしやすく指紋を読み取らせやすい指で行ってください。
  - ・できるだけ広い範囲の指紋が読み取られている
  - ・指紋の渦が画像の中に含まれている

**6** もう一度指紋センサーに指をスライドさせ、指紋の確認を行います。

**7** 「確認は成功しました」と表示されたら、「完了」をクリックします。
確認がうまくいかなかった場合には、 をクリックし、もう一度指紋の読み取りを行ってください。

**8** 「少なくとも 2 本の指の登録が必要です。引き続き、2 本目の指を登録してください。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
手順 4 の操作に戻り、1 指目以外の指の指紋を登録してください。指先の怪我やその他の理由で指紋を認証できなくなった場合に備え、登録時の手順では 2 本分の指紋を登録します。なお、指紋は最大 10 本分まで追加登録することができます。「指紋を追加登録する」（→ P.35）

**9** 2 指目の指の指紋を登録したら、「完了」をクリックします。
「操作が完了するまでお待ちください…」というウィンドウが表示され、ユーザー登録が行われます。

**10** 「OmniPass は新しいユーザーの作成を完了しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
これで指紋の登録は完了です。

## 指紋認証を使って Windows にログオンする

指紋認証を使うと Windows ログオンパスワードを入力する代わりに、指紋センサーに指をスライドさせることで Windows にログオンできるようになります。

**1** 電源スイッチをスライドさせて、Windowsを起動します。
Windows が起動すると、ひとつのユーザーについてふたつのアイコンが表示されます。
「(OmniPass Authentication)」の付いたユーザー名をクリックすると「ログオン認証」画面が表示されます。

**2** ログオンしたいユーザーが指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。
指紋の認証に成功すると、Windows にログオンします。
認証画面が表示されていない場合は、 をクリックして「AuthenTec 指紋ドライバ」を選択し、認証画面を表示させてください。

**POINT**

- 指紋の読み取りがうまくいかない場合
  指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（→ P.32）をご覧ください。
- 指紋認証がうまくいかない場合
   をクリックして「マスターパスワード認証」を選択し、Windows のログオンパスワードによる認証を行ってください。
- Windows のログオンパスワードを変更した場合は、指紋認証時に登録したパスワードも、新しいパスワードに変更する必要があります。
  Windows のログオンパスワードを変更した後に指紋認証を行うと、「OmniPass-Windows パスワードの更新」ウィンドウが表示されますので、「パスワード」および「パスワードの確認」に変更後の Windows のログオンパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- 別のユーザーで指紋登録した指をスライドした場合
  どのユーザーのアイコンをクリックしたかに関わらず、指紋を認証したユーザーで Windows にログオンします。

- Microsoft Origami Experience 2.0 の「Origami 画像パスワード」機能を使用する場合
「(OmniPass　Authentication)」の付いていない方のユーザーをクリックして、ログオン操作を行ってください。

## 登録情報を変更する

### ■指紋認証の登録情報の構成

登録情報は、次のような構成で設定されています。
指紋認証を使うためには、ご利用になる方の指紋をあらかじめ登録しておく必要があります。本パソコンに指紋を登録する方法については、「指紋を登録する」（→ P.33）をご覧ください。

●ユーザー名
指紋を登録したユーザーの名前です。Windows のユーザー名と同じ名前が使用されます。

●ドメイン
通常は、パソコンのフルコンピュータ名が表示されます。

●指紋
指紋が登録されています。

●パスワード
指紋を登録したユーザーのパスワードです。Windows にログオンするときと同じパスワードが使用されます。

●各ホームページのログイン情報
ID（ユーザー名）やパスワードの入力を必要とするホームページを、指紋を認証させるだけで閲覧を可能にするために、あらかじめ ID（ユーザー名）やパスワードを登録しておきます。

### ■登録情報を変更する

ここでは、指紋認証を使うために登録した情報を変更する方法について説明します。

●ユーザー名
ユーザー名は変更できません。Windows のユーザー名と同じ名前が使用されます。

**重 要**

- 指紋認証を使用するよう登録した Windows のユーザー名は、変更しないでください。

●パスワード
Windowsにログオンするときのパスワードを変更した場合は、指紋認証の登録情報に設定されているパスワードも、変更後のWindowsのパスワードと同じものに変更する必要があります。Windows のパスワードを変更した後、Windows へのログオンやホームページへのログインのために初めて指紋認証を行った時に、警告メッセージが表示されるので、変更後のパスワードを登録してください。

●指紋
指紋の登録を 10 本まで追加することができます。また、すでに登録済みの指紋を登録しなおすこともできます。ただし、登録済みの指紋を削除するには、指紋認証の登録情報をすべて削除し、再登録を行う必要があります。

●ホームページのログイン情報
ホームページのログイン情報を変更する場合は、登録済みのログイン情報を削除し、再登録が必要になります。この場合は指紋認証の登録情報を削除する必要はありません。

### ■指紋認証の登録情報を削除する

ユーザーの登録情報を削除するには、そのユーザーで OmniPass にログオンしている必要があります。

1. **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。**
「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。
2. **「ユーザー管理ウィザードの実行」をクリックします。**
ユーザー管理ウィザードメニューが表示されます。
3. **「OmniPass からユーザーを削除」をクリックします。**
「ユーザー削除の認証」ウィンドウが表示されます。
4. **指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。**
指紋の認証が成功すると、「ユーザー削除の確認」ウィンドウが表示されます。
5. **「OK」をクリックします。**
「ユーザーは正常に削除されました」というメッセージが表示されます。
6. **「OK」をクリックします。**

指紋認証の登録情報が削除されました。「指紋認証の情報を登録する」をご覧になり、指紋認証情報の再登録を行ってください。

### ■指紋認証の情報を登録する

指紋認証情報の登録方法については、「指紋を登録する」（→ P.33）をご覧ください。

### ■指紋を追加登録する

1. **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass コントロールセンター」の順にクリックします。**
「OmniPass コントロールセンター」ウィンドウが表示されます。
2. **「ユーザー管理ウィザードの実行」をクリックします。**
ユーザー管理ウィザードメニューが表示されます。

**3**「ユーザーの認証デバイスの登録変更」をクリックします。

「認証デバイスの登録変更の認証」ウィンドウが表示されます。

「指紋を登録する」(→ P.33) の手順 4 〜 7 をご覧になり、新しい指紋を登録してください。

## BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本パソコンご購入時の状態に戻す方法について説明します。

**1** 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」(→P.21)をご覧ください。

**2**【↓】または【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップが起動します。

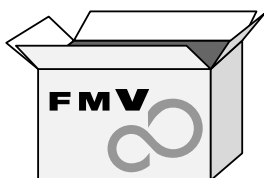
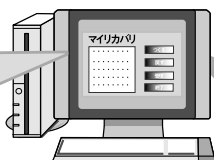
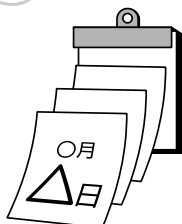
**3**「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行した後、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。

**重 要**

- 「標準設定値を読み込む」を実行しても、管理者用パスワード、ユーザー用パスワード、ハードディスクパスワード、所有者情報の設定は、現在お使いの状態のまま変更されません。

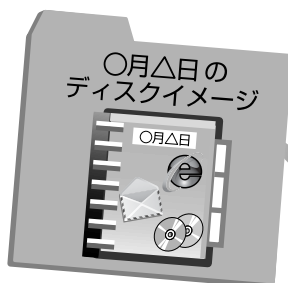
## マイリカバリについて

### マイリカバリとは

「マイリカバリ」を使ったリカバリについて、簡単に説明します。

でも

6

いざというときに備えて
ディスクイメージを
作っておいたので…

大丈夫!

## 「マイリカバリ」でできること

「マイリカバリ」は、ハードディスク（C ドライブのみ）をまるごとバックアップしておき、必要なときにバックアップしたときと同じ状態に戻すことのできるソフトウェアです。
「マイリカバリ」を使って何ができるのか、簡単に説明します。

### ■ディスクイメージを作成する

ディスクイメージとは、ハードディスクに格納されたあらゆる情報を 1 つにまとめたファイルです。
「マイリカバリ」では、C ドライブのデータをまるごとディスクイメージとして D ドライブなど C ドライブ以外の他のドライブに保存します。C ドライブをまるごと D ドライブなどにバックアップしておくようなものと考えればよいでしょう。

### ■ディスクイメージを復元する

ディスクイメージを復元して、C ドライブを前の状態に戻すことを、「マイリカバリ」を使ったリカバリをするとも言います。
ディスクイメージを使ったリカバリを行うと、C ドライブが、ディスクイメージを保存したときと同じ状態に戻ります。

### ■こんなときに便利です

万一、何らかの不具合が生じてパソコンの調子がおかしくなったときに、パソコンの調子が良かったときの状態をそのまま保存したディスクイメージが作ってあれば安心です。
ディスクイメージが作ってあれば、「マイリカバリ」を使って、簡単な操作でパソコンを調子の良かったときの状態に戻すことができます。
セットアップやセキュリティ対策などの設定をひととおり終えた後は、「マイリカバリ」でディスクイメージを作って保存しておくことをお勧めします。C ドライブのバックアップとして、定期的にディスクイメージを作成しておくのもお勧めです。

# 「マイリカバリ」の使い方〜ディスクイメージを作成する

いざというときに備えて、「マイリカバリ」で C ドライブのディスクイメージを作成しておくと安心です。
ここでは、「マイリカバリ」でディスクイメージを作成する方法を説明します。

## 「マイリカバリ」をお使いになる上での注意事項

### ■パソコンに不具合が起こっているときは、ディスクイメージを作成しないでください

ディスクイメージを作成すると、パソコンの C ドライブをそのままの状態で保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。パソコンに不具合が起こっているときはディスクイメージを作成しないでください。

### ■「アプリケーションディスク 2 &ユーティリティディスク」以外で領域を設定した場合

「アプリケーションディスク2&ユーティリティディスク」を使用せずに、市販のソフトウェアなどでハードディスクの領域設定を行った場合、「マイリカバリ」はお使いになれません。

### ■D ドライブを拡張領域に設定した場合

お客様が D ドライブを拡張領域に設定していると、ディスクイメージを D ドライブに作成できません。

### ■保存先を外付けハードディスクにする場合は、USB 接続の外付けハードディスクを用意してください。

ここでは、まだ接続はしないでください。接続している場合は、必ず取り外してください。「マイリカバリ」が起動しないことがあります。
「マイリカバリ」起動後、外付けディスクを接続してくださいと表示されたら、接続してください。
外付けハードディスクの接続情報については、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「他社周辺機器接続情報」をご覧ください。

### ■保存先を別のパソコンなどネットワーク上のドライブにする場合

次の点にご注意ください。
- ネットワークの知識が必要です。
- あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
- 別のパソコンとの接続には、クロスケーブルをお使いになることを強くお勧めします。
- ディスクイメージ作成中は、すべてのパソコンのログオンパスワードを「無効」にしてください。「ネットワークと

共有センター」の「パスワード保護共有」で設定を変更できます。

●ディスクイメージ作成中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ作成後、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。

## ディスクイメージを作成する

**1** パソコン本体のUSBコネクタまたはIEEE1394(DV)端子に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

**2** (スタート)→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」の順にクリックします。

「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。

**3**「閉じる」をクリックします。

「マイリカバリ」が表示されます。

**4**「つくる」をクリックします。

**5** コメント入力域に、作成するディスクイメージに付けるコメントを入力し、「次へ」をクリックします。

**6**「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

「ディスクイメージの作成」という画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。

**7** ディスクイメージの保存先を選びます。

■ Dドライブに保存する場合

「Dドライブにつくる」をクリックします。

■ USB接続の外付けハードディスクに保存する場合

1. パソコンのUSBコネクタに外付けハードディスクを接続し、「保存先選択」をクリックします。
2. 保存先のドライブを選択し、「次へ」をクリックします。

■ ネットワーク上のドライブに保存する場合

1. 「保存先選択」をクリックします。
2. 「ネットワークの割り当て」をクリックします。
3. ドライブとフォルダを選択し、「OK」をクリックします。

   ユーザー名とパスワードを確認する画面が表示されたら、ユーザー名が「(ネットワーク上のコンピュータ名)¥guest」になっていることを確認し、パスワードには何も入力しないで、「OK」をクリックします。

**8**「これからディスクイメージをつくります。」という画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

**9**「実行」をクリックします。

**10** ディスクイメージを作成し始めます。しばらくお待ちください。

**POINT**

- 終了までの時間表示が増えることがあります。
  これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約30%終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

**11**「ディスクイメージを作成しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで、「マイリカバリ」により、ディスクイメージが指定したドライブに作成されました。

**POINT**

- 作成したディスクイメージは、DVDなどにコピーできます。
  DVDなどにディスクイメージをコピーしておけば、パソコンにもしものことがあった場合でも安心です。ディスクイメージをDVDなどにコピーしておくことをお勧めします。詳しくは、「ディスクイメージをDVDにコピーする」(→P.39)をご覧ください。

## ディスクイメージをDVDにコピーする

Dドライブなどに保存されているディスクイメージを、DVDにコピーする方法を説明します。なお、必要なDVDの枚数は、お使いのモデルや状況によって異なります。手順5(→P.40)の画面に表示される枚数を確認し、必要な枚数のDVDを用意してください。

**重要**

- BIBLOをお使いの方は、必ずACアダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

**POINT**

- 動作確認された外付けのCD/DVDドライブを用意してください。
  動作確認情報は、サポートページ(http://azby.fmworld.net/support/)の「他社周辺機器接続情報」などをご覧ください。
- お使いになれるディスク
  「マイリカバリ」でディスクイメージを書き込めるディスクは、DVD+RW、DVD+R、DVD-RW、DVD-R、DVD+R DLです。
  CD-R、CD-RW、DVD-RAM、DVD-R DL、Blu-ray Discはお使いになれません。

- ディスクイメージを DVD に書き込むには、「Roxio Creator［ロキシオクリエーター］」というソフトウェアが必要です。「Roxio Creator」はこのパソコンにインストールされています。
- ディスクイメージを書き込んだDVDを使って、パソコンを起動することはできません。
  「マイリカバリ」でリカバリをする手順の途中で、ディスクをセットするところでのみ、お使いになれます。
- ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを DVD にコピーする場合
  次の点にご注意ください。
  - あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
    ネットワークドライブの割り当てをしてください。
  - セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、保存先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。
  - ディスクイメージコピー中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージコピー後は、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。
  - ディスクイメージコピー中は、すべてのパソコンのログオンパスワードを「無効」にしてください。「ネットワークと共有センター」の「パスワード保護共有」で設定を変更できます。

**1** （スタート）→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は「続行」をクリックします。
「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。

**2**「閉じる」をクリックします。
「マイリカバリ」が表示されます。

**3**「管理」をクリックします。

**4**「ディスクイメージ管理」をクリックします。

**5** DVD にコピーするディスクイメージを選択し、必要な枚数のディスクを用意します。

**6**「DVD 作成」をクリックします。

**7**「次のDVDをコピーします。」というメッセージが表示されたら、用意したディスクのレーベル面にディスクイメージ名と何枚目のディスクかを記入してから、パソコンにセットします。
レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆などの先の硬いものは使わないでください。ディスクに傷がつくおそれがあります。

**8**「はい」をクリックします。
ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。
書き込みが完了すると、「メディアへの書き込みが終了しました」というメッセージが表示され、CD/DVD ドライブが自動的に開きます。

**9**「OK」をクリックします。

**10**「バックアップディスクの作成はすべて完了しました。」というメッセージが表示されるまで、手順 7 ～ 9 を繰り返します。

**11**「バックアップディスクの作成はすべて完了しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

**12**「マイリカバリ 管理」ウィンドウで、「戻る」をクリックします。

**13**「マイリカバリ」ウィンドウで、「終了」をクリックします。
ディスクイメージをコピーしたディスクは、大切に保管してください。

## ディスクイメージを削除する

不要になったディスクイメージを削除する方法を説明します。

**POINT**

- ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを削除する場合
  次の点にご注意ください。
  - あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
    ネットワークドライブの割り当てをしてください。
  - セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、保存先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。
  - ディスクイメージ削除中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ削除後は、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。
  - ディスクイメージ削除中は、すべてのパソコンのログオンパスワードを「無効」にしてください。「ネットワークと共有センター」の「パスワード保護共有」で設定を変更できます。

1 「ディスクイメージをDVDにコピーする」の手順1～3（→P.40）を行い、「マイリカバリ」を起動して、「管理」をクリックします。

2 削除するディスクイメージを選択し、「削除」をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

3 「はい」をクリックします。

ディスクイメージが削除されます。

4 「マイリカバリ 管理」ウィンドウで、「戻る」をクリックします。

5 「マイリカバリ」ウィンドウで、「終了」をクリックします。

## 「マイリカバリ」の使い方～ディスクイメージを復元する

「マイリカバリ」であらかじめ作成しておいたディスクイメージを、復元する方法を説明します。

**重要**

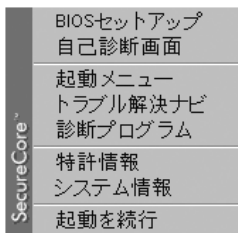
- ディスクイメージを復元すると、C ドライブが、ディスクイメージを作成した時点の状態に戻ります。よって、ディスクイメージを作成した後に C ドライブに保存したファイルは、すべて失われます。ディスクイメージを作成した後に保存したデータは、D ドライブまたは CD や DVD などの別の媒体にバックアップをしてください。
- 外付けハードディスクに保存したディスクイメージを復元する場合は、USB 接続の外付けハードディスクを用意してください。ここでは、まだ接続はしないでください。
  接続している場合は、必ず取り外してください。「マイリカバリ」が起動しないことがあります。
  「マイリカバリ」起動後、外付けディスクを接続してくださいと表示されたら、接続してください。
  外付けハードディスクの接続情報については、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「他社周辺機器接続情報」をご覧ください。
- ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを復元する場合
  次の点にご注意ください。
  - ・ネットワークの知識が必要です。
  - ・あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
  - ・別のパソコンとの接続には、クロスケーブルをお使いになることを強くお勧めします。
  - ・ディスクイメージ復元中は、すべてのパソコンのログオンパスワードを「無効」にしてください。「ネットワークと共有センター」の「パスワード保護共有」で設定を変更できます。
  - ・ディスクイメージ復元中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ復元後、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。

1 パソコン本体の USB コネクタまたは IEEE1394（DV）端子に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

2 本パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

**POINT**

- Windowsが起動している状態から「マイリカバリ」を始めることもできます
  1. デスクトップの（マイリカバリ）をクリックします。
     「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。
  2. 「閉じる」をクリックします。
     「マイリカバリ」が表示されます。
  3. 「もどす」をクリックします。
  4. 「OK」をクリックします。
     パソコンが再起動し、「ご使用上の注意」が表示されます。
  5. 手順10（→P.42）に進みます。

**3** 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→P.21）をご覧ください。

**4**【↓】キーを押して、「トラブル解決ナビ」を選択し、【Enter】キーを押します。

**5**「システム回復オプション」ウィンドウで「日本語」を選択し、「次へ」をクリックします。

**6**「Microsoft Windows Vista」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

**7**「OK」をクリックします。
お使いのパソコンで設定しているユーザー名を選択してください。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「OK」をクリックしてください。

**8**「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「トラブル解決ナビ」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

**9**「リカバリ」タブをクリックし、「マイリカバリ」をクリックして、「実行」をクリックします。
「ご使用上の注意」が表示されます。

**10** 画面に表示された「ご使用上の注意」に同意していただいた場合は、「同意する」をクリックして、「次へ」をクリックします。
「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

**11**「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを選択します。
外付けハードディスクに保存したディスクイメージから復元する場合は、外付けハードディスクを接続します。

■ **Dドライブや外付けハードディスクに保存されている最新のディスクイメージを使って復元する場合**

「最新のディスクイメージで戻す」をクリックします。

■ **Dドライブや外付けハードディスクに保存されている最新以外のディスクイメージを使って復元する場合**

1. 「ディスクイメージを選ぶ」をクリックします。
2. 表示されたリストからディスクイメージを選択し、「決定」をクリックします。

■ **ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを使って復元する場合**

1. 「ディスクイメージを選ぶ」をクリックします。
2. 「ネットワーク上のディスクイメージを選択」をクリックします。
   ユーザー名とパスワードを確認する画面が表示されたら、ユーザー名が「（ネットワーク上のコンピュータ名）¥guest」になっていることを確認し、パスワードには何も入力しないで、「OK」をクリックします。
3. 表示されたリストからディスクイメージを選択し、「決定」をクリックします。

**12**「次へ」をクリックします。

**13**「実行」をクリックします。
ディスクイメージを使ったリカバリが始まります。

**14** そのまましばらくお待ちください。

**POINT**

- 終了までの時間表示が増えることがあります。
  これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約30%終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

**15**「復元が完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。

これで、「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを使ったリカバリが完了しました。

# ご購入時の状態に戻すリカバリについて

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、ご購入時の状態に戻すリカバリを行います。

## ご購入時の状態に戻すリカバリの概要と注意事項

ご購入時の状態に戻すリカバリとは、リカバリ用に保存されているデータを使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。

## 注意事項

- リカバリを行うと、C ドライブのデータはすべて失われます。必要に応じて事前にバックアップしておいてください。
- リカバリ時には、必ず AC アダプタを接続してください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕を持って、操作を実行してください。

## リカバリディスクを作っておく

このパソコンには、トラブルに備えて、ハードディスクの「リカバリ領域」という場所に、ご購入時の C ドライブの中身が保存されています。
パソコンにトラブルが起こったときは、このリカバリ領域から C ドライブをご購入時の状態に復元します。
しかし、何らかの理由でリカバリ領域のデータが読み込めなくなると、パソコンにトラブルが起こってもご購入時の状態に戻すことができなくなります。そのため、パソコンご購入後はできるだけ早く、リカバリ領域のデータを DVD にバックアップしてください。
リカバリ領域のデータをDVDにバックアップしたものを「リカバリディスク」といいます。
ここでは、「リカバリディスク」を作成する方法を説明します。

**POINT**

- 「リカバリディスク」「アプリケーションディスク」を紛失または破損したときは
  ◎「リカバリディスク」は、Web または電話で申し込んで購入してください。
  ◎「アプリケーションディスク」は Web からの購入はできません。電話で申し込んで購入してください。
  - Web からの申し込み
    次の「リカバリ CD/ ディスク有償サービス」ページから申し込んでください。
    http://azby.fmworld.net/support/attachdisk/
  - 電話での申し込み
    富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口に申し込んでください。
    0120-950-222（通話料無料）

■リカバリディスクを作る

リカバリ領域のデータを DVD にバックアップする方法を説明します。手順 5（→ P.43）の画面を確認し、必要な枚数の DVD を用意してください。なお、お使いになれるディスクは DVD-R のみです。

**重要**

- 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

**POINT**

- 動作確認された外付けの CD/DVD ドライブを用意してください。
  動作確認情報は、サポートページ (http://azby.fmworld.net/support/) の「他社周辺機器接続情報」などをご覧ください。
- お使いになれるディスク
  「マイリカバリ」でディスクイメージを書き込めるディスクは DVD-R です。その他のディスクはお使いになれません。
- ディスクイメージを DVD に書き込むには、「Roxio Creator［ロキシオクリエーター］」というソフトウェアが必要です。「Roxio Creator」はこのパソコンにインストールされています。
- ディスクイメージを書き込んだDVDを使って、パソコンを起動することはできません。
  ご購入時の状態に戻すリカバリをする手順の途中で、ディスクをセットするところでのみ、お使いになれます。
- ディスクの作成には1時間から2時間ほどかかります。時間に余裕をもって作業をしてください。

1. （スタート）→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」の順にクリックします。
2. 「閉じる」をクリックします。
3. 「管理」をクリックします。
4. 「リカバリディスク作成」をクリックします。
5. 「ディスクイメージの一覧」に表示された枚数のディスクを用意します。
6. 「DVD 作成」をクリックします。

**7** 「「リカバリディスク」の 1 枚目を作成します。」というメッセージが表示されたら、用意したディスクのレーベル面に「リカバリディスク（1 枚目）」と記入してから、パソコンにセットします。
レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆などの先の硬いものは扱わないでください。ディスクに傷がつくおそれがあります。

**8** 「はい」をクリックします。

**9** 画面に表示されるメッセージに従って手順 7 〜 8 を繰り返します。

**10** 「全て完了しました」と表示されたら、ディスクを取り出して「OK」をクリックします。

**11** 「マイリカバリ管理」ウィンドウで、「戻る」をクリックします。

**12** 「マイリカバリ」ウィンドウで、「終了」をクリックします。

これで「リカバリディスク」の作成は終了です。作成した「リカバリディスク」は大切に保管してください。

## リカバリ方法

**重要**

- 「マイリカバリ」でディスクイメージを作成している方
ご購入時の状態に戻すリカバリをする前に、「マイリカバリ」で保存しているディスクイメージを使ってリカバリすることをお勧めします。それでも問題が解決しない場合は、ご購入時の状態に戻すリカバリを行ってください。
- トラブル解決が目的でリカバリをする方
リカバリをしても、問題が解決されない場合があります。その場合は、状況に応じたサポートやサービスをご利用ください。

**参照**

・状況に応じたサポートやサービスをご利用いただくには
『サポート＆サービスのご案内』

- この章で説明する手順では、C ドライブだけをご購入時の状態に戻します。D ドライブのデータは残ります。
- リカバリが中断されてしまったら
リカバリが中断されてしまった場合は、以下の点を確認した後、次の手順 1（→ P.44）からやり直してください。
・周辺機器を取り外したか確認してください。
パソコンの電源を切り、ご購入時に添付されているディスプレイ、キーボード、マウス以外の周辺機器はすべて取り外してください。USB［ユーエスビー］マウスが添付されている場合は、マウスも取り外してください。
・手順を確認してください。
手順を間違えている可能性があります。操作手順を間違えると中断される場合があります。
- パソコン本体の USB コネクタ、または IEEE［アイトリプルイー］1394（DV）端子に、外付けハードディスクなどを接続している場合は、リカバリを行う前に必ず取り外してください。
外付けハードディスクが接続されていると、リカバリが行えません。
- 「リカバリディスク」からリカバリを実行する場合
動作確認された外付けの CD/DVD ドライブを用意してください。
動作確認情報は、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「他社周辺機器接続情報」などをご覧ください。
また、リカバリの完了メッセージが表示されるまで、セットされているディスクを取り出さないでください。リカバリが中断されることがあります。

**POINT**

- リカバリやバックアップの操作代行サービス（有償）をご用意しています
富士通パソコン出張サービス「PC 家庭教師」をご利用ください。

**参照**

『サポート＆サービスのご案内』
「操作指導サービス」→「富士通パソコン出張サービス「PC 家庭教師」（有料）［富士通パーソナルズ］」

### ■リカバリの実行

**1** 本パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

**2** 本パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

BIOSセットアップ
自己診断画面
起動メニュー
トラブル解決ナビ
診断プログラム
特許情報
システム情報
起動を続行

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」(→P.21)をご覧ください。

**3**【↓】キーを押して、「トラブル解決ナビ」を選択し、【Enter】キーを押します。
**4**「システム回復オプション」ウィンドウで「日本語」を選択し、「次へ」をクリックします。
**5**「Microsoft Windows Vista」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
**6**「OK」をクリックします。
お使いのパソコンで設定しているユーザー名を選択してください。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「OK」をクリックしてください。
**7**「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「トラブル解決ナビ」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。
**8**「トラブル解決ナビ」が表示されたら、「リカバリ」タブをクリックし、「マイリカバリ」をクリックして、「実行」をクリックします。
「復元を始める前に、必ず以下をよくお読みください。」の画面が表示されます。
**9**「ご使用上の注意」の内容をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。
**10**「C ドライブの復元」の画面で、「ディスクイメージを選ぶ」をクリックします。
**11**「ご購入時の状態のディスクイメージを戻す」を選択し、「決定」をクリックします。
**12**「次へ」をクリックします。
**13** リカバリについて説明する画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
**14**「実行」をクリックします。
リカバリが始まります。
**15** そのまましばらくお待ちください。
**16**「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。「Windows のセットアップ」画面が表示されるまで、電源を切らずに、そのままお待ちください。

## ■Windows のセットアップをする

これで、Windows がご購入時の状態に戻りました。この後、ご購入後初めて電源を入れたときと同じように windows のセットアップが必要です。ここでは手順のみを説明します。

**1**「同意します」を 2ヶ所クリックし、「次へ」をクリックします。
**2** ユーザー名を半角英数字で入力し、お好きな画像を選択して、「次へ」をクリックします。
ここではパスワードを入力しないでください。
**3** デスクトップの背景のみを選択して「次へ」をクリックします。
**4**「開始」をクリックします。
**5** しばらくお待ちください。
**6**「必ず実行してください」ウィンドウが表示されたら、「実行する」をクリックします。
**7**「続行」をクリックします。
**8** このあとは、表示されるメッセージに従ってください。

## ■追補 1　Office Personal 2007 をご購入時と同じ設定にする（「Office Personal 2007」搭載機種および「Office Personal 2007 with PowerPoint 2007」搭載機種をお使いの方）

**1**「Microsoft Office・・・をインストールします」と表示されたら、現在セットされているディスクを取り出し、「Office Personal 2007 の CD-ROM」をセットして、「はい」をクリックします。

**2** プロダクトキーを入力する画面が表示されるので、「プロダクトキー」を入力し、「次へ」をクリックします。
**3**「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項をお読みください」と表示されたら、内容をよく読み、「「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項」に同意します」をクリックして☑にして、「次へ」をクリックします。
**4**「今すぐインストール」をクリックします。
**5** インストール終了のメッセージが表示されたら、「閉じる」をクリックします。
**6** 表示されている画面に従って、「2007 Microsoft Office system Service Pack1」をインストールします。
「PowerPoint 2007」をお使いの方は、画面の指示に従って「PowerPoint 2007」をインストールしてください。

**重要**

- インストールの途中で、プロダクトキーの入力が必要になります。
  「PowerPoint 2007」のパッケージに同梱されているプロダクトキーの英数字を入力してください。
- パソコンがご購入時の状態に戻った後、実際に「PowerPoint 2007」のソフトウェアをお使いになる前には、「ライセンス認証」が必要になります。

**7** 表示される画面に従って、「Office　ナビ」をインストールします。

**8** 表示される画面に従って、デスクトップのアイコンをご購入時の状態に戻します。

このあとは、表示されるメッセージに従ってください。

以上でリカバリ操作は終了です。

お客様が実行したセキュリティ対策や各種設定内容は、実行前の状態に戻っています。セットアップ後、「Windows Update」などのセキュリティ対策を行ってください。また、必要に応じて、ドライバやソフトウェアのインストールや設定などを行ってください。

## マニュアルのダウンロード

ホームページから電子マニュアルをダウンロードできます。サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「ダウンロード」から機種を選択し、「富士通 FMV マニュアル」をダウンロードしてください。

## リカバリ領域を削除する

リカバリ領域を削除して、その分他のドライブの容量を増やすことができます。リカバリ領域のデータのみ削除され、C ドライブ、D ドライブのデータは残ります。

**重要**

- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域にあるデータがすべて消えてしまいます。リカバリ領域のデータがないと、パソコンに不具合があったときにパソコンをご購入時の状態に戻すことができません。
  リカバリ領域を削除する前には、必ずリカバリ領域のデータをディスクにコピーして、「リカバリディスク」を作成してください。
  「リカバリディスク」の作成方法については、「リカバリディスクを作っておく」（→ P.43）をご覧ください。
- パソコン本体の USB コネクタまたは IEEE1394（DV）端子に外付けハードディスクなどを接続している場合は、必ず取り外してください。
- 動作確認された外付けの CD/DVD ドライブを用意してください
  動作確認情報は、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「他社周辺機器接続情報」などをご覧ください。

### ■ディスクを用意する

次のディスクを用意してください。

- 「アプリケーションディスク 2 &ユーティリティディスク」

### ■リカバリ領域を削除する

**1** 本パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

**2** 本パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。

ポップアップメニューが表示されます。

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→P.21）をご覧ください。

**3** 【↓】または【↑】キーを押して「起動メニュー」を選択し、【Enter】キーを押します。

起動メニューが表示されます。

**4** 「アプリケーションディスク 2 &ユーティリティディスク」をセットします。

5 【↓】キーを押して、「CD/DVD」や「CD/DVD Drive」などを選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
6 「トラブル解決ナビ」が表示されたら、「ユーティリティ」タブをクリックし、「リカバリ領域の削除」をクリックします。
7 「実行」をクリックします。
8 「続行」をクリックします。
表示される「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。
9 「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
10 「実行」をクリックします。
11 「OK」をクリックします。
12 「トラブル解決ナビ」で「終了」をクリックします。
13 ディスクを取り出し、「再起動」をクリックします。
14 D ドライブの容量が増えていることを確認します。

これで作業は終了です。

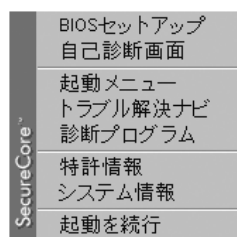
## リカバリ領域を復元する

削除したリカバリ領域を復元して、リカバリ領域から C ドライブをご購入時の状態に戻せるようにします。

**重要**

- リカバリ領域を復元するときに、ハードディスクの領域が設定しなおされます。このため、ハードディスクの内容はすべて削除されます。あらかじめ必要なデータを CD、DVD、外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。
- 「リカバリディスク」が必要です
リカバリ領域の復元には、「リカバリディスク」が必要です。万一「リカバリディスク」を紛失・破損された場合は、有償でご購入いただけます。詳しくは「「リカバリディスク」「アプリケーションディスク」を紛失または破損したときは」（→ P.43）をご覧ください。

■ディスクを用意する
次のディスクを用意してください。
- 「アプリケーションディスク 2 &ユーティリティディスク」
- 「リカバリディスク」一式

■リカバリ領域を復元する
1 本パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。
2 本パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

**POINT**

- ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→P.21）をご覧ください。

3 【↓】または【↑】キーを押して「起動メニュー」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動メニューが表示されます。
4 「アプリケーションディスク 2 &ユーティリティディスク」をセットします。
5 【↓】キーを押して、「CD/DVD」や「CD/DVD Drive」などを選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
6 「トラブル解決ナビ」が表示されたら、「ユーティリティ」タブをクリックし、「リカバリ領域の復元」をクリックします。
7 「実行」をクリックします。
表示される「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。
8 「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
9 「実行」をクリックします。
10 リカバリディスクの 1 枚目をセットして「OK」をクリックします。
リカバリ領域の復元が始まります。このあとは画面の表示に従って、ディスクをセットして操作してください。
11 「領域設定」の画面で、C ドライブと D ドライブの容量を指定します。
12 「実行」をクリックします。
13 「はい」をクリックします。
14 これ以降は、「リカバリの実行」の手順 10 （→ P.45）以降の手順に従って、C ドライブをご購入時の状態に戻してください。

## リサイクルについて

### ■本製品の廃棄について

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

**●個人のお客様へ**

本製品を廃棄する場合は、必ず弊社専用受付窓口「富士通パソコンリサイクル受付センター」をご利用ください。

詳しくは、「富士通パソコンリサイクル受付センター」のホームページ（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

**●法人、企業のお客様へ**

本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。

### ■使用済みバッテリの取り扱いについて

- リチウムイオン電池のバッテリパック、バッテリユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- 使用済みバッテリは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

バッテリの仕様については、「仕様一覧」（→P.60）、またはバッテリの取扱説明書をご覧ください。

**●個人のお客様へ**

使用済みバッテリは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。詳しくは、有限責任中間法人 JBRC のホームページ（http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html）をご覧ください。

弊社は有限責任中間法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

**●法人・企業のお客様へ**

法人、企業のお客様は、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。

# 3. トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

## トラブルに備えて

### テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。
テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

**■本パソコンの注意事項**

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

**■テレビやラジオなどの注意事項**

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。
テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。
それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

### Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。
詳しくは、『製品ガイド』－「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」をご覧ください。また、「必ずお読みください」－「セットアップ」（→ P.19）もあわせてご覧ください。

### 修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。
なお、弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「アップデートナビ」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。
Windows については、「Windows Update（Microsoft Update）」で最新の修正プログラムを入手できます。

### データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータは CD/DVD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

### 自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

### ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件
  使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。

- 取り付け時やインストール時に注意すべき点
  特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

# トラブル発生時の基本操作

## 本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
  キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」（→P.52）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

## 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→P.49）。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

### ■前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してください。

1. 本パソコンの電源を入れます。
2. 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Fn】+【F2(F8)】キーを押します。
   「詳細ブートオプション」が表示されます。
   【F2(F8)】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。「詳細ブートオプション」が表示されるまで何度か押してください。

   **POINT**

   ▶「詳細ブートオプション」が表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→ P.21）をご覧ください。

3. 「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、【Enter】キーを押します。
   画面の指示に従って操作します。

## セーフモードで起動する

Windowsが起動しない場合、セーフモードで起動できるか確認してください。

起動方法は、次のとおりです。

1. 本パソコンの電源を入れます。
2. 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Fn】+【F2(F8)】キーを押します。
   「詳細ブートオプション」が表示されます。
   【F2(F8)】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。「詳細ブートオプション」が表示されるまで何度か押してください。

   **POINT**

   ▶「詳細ブートオプション」が表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→ P.21）をご覧ください。

3 【↓】キーまたは【↑】キーを押し、「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
4 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows ヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

## バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

## メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

## 診断プログラムを使用する

Windows が起動しない場合、この診断プログラムを使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。
診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナルエコーセンター」にお問い合わせの際にお知らせください。
診断時間は通常 5 〜 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。
2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Fn】+【F6(F12)】キーを押します。
起動メニューが表示されます。

**POINT**

- 起動メニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。再起動については、「電源の切り方」（→ P.21）をご覧ください。

3 【↓】キーを押して、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか ?」と表示されます。
4 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が終了したら自動的にパソコンが再起動し、診断結果が表示されます。
5 次の操作を行います。

■ トラブルが検出されなかった場合
【Enter】キーを押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順 6 に進んでください。

■ トラブルが検出された場合
画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせの際にお伝えください。その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。
7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。
ハードウェア診断が始まります。

**POINT**

- 「［ハードウェア名］に［媒体］をセットしてください」などと表示された場合、本パソコンに添付の「ドライバーズディスク 1」など、何らかの CD-ROM または DVD-ROM をセットして、「診断開始」をクリックしてください。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。
表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせの際にお伝えください。
9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。
10 「終了」をクリックします。
「終了」ウィンドウが表示されます。
11 「はい」をクリックします。
「システム回復オプション」ウィンドウが表示されます。
12 「システム回復オプション」ウィンドウで「キャンセル」をクリックします。
パソコンを再起動するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
パソコンが再起動して、診断プログラムが終了します。

## リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、「必要に応じてお読みください」－「ご購入時の状態に戻すリカバリについて」（→ P.43）をご覧ください。

■リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

## 起動・終了時のトラブル

□メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『製品ガイド』－「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

□電源が入らない

●AC アダプタは接続されていますか？

お買い上げ後、最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。

●バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）

状態表示 LED のバッテリ残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。

バッテリ残量表示、および確認方法については、『製品ガイド』－「ハードウェア」－「バッテリについて」をご覧ください。

バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください。

●長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。

●AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。

AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外して 2 ～ 3 分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。

□画面に何も表示されない

●電源ランプは点灯していますか？

・点灯している場合

【Fn】+【:】キー、または【Fn】+【/】キーを押して明るさを調節してください。

・点滅または消灯している場合

電源スイッチをスライドして動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください。

AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

●キーを操作していましたか？

本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

●外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？

外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。

「必要に応じてお読みください」－「表示するディスプレイを切り替える」（→ P.28）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

●外部ディスプレイを使用している場合

次の項目を確認してください。

・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？

・セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？

必ずセットアップ後に接続してください。

●解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。

その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。

『製品ガイド』－「機能」－「ディスプレイ関連」をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください。

□ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

●キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。「スタート」メニューが表示されます。
2. 【↑】【↓】【←】【→】キーを押し、の を選択し、「シャットダウン」を選び【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

□Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

●次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
2. 表示された画面の右下にある をクリックし、Windows を終了します。

**POINT**

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.56）。

この操作で強制終了されないときは、電源スイッチを 4 秒以上スライドして電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

## Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

□Windows が起動しなくなった

●周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください。

もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

●セーフ モードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し（→ P.50）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

□起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された

Windows Vista を正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windows Vista の修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。

□セーフモードで起動し「キーボードの選択」画面が表示された

Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。

●診断プログラムでパソコンの診断をしてください（→ P. 51）。

エラーが発生しなかった場合は、リカバリを行い、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（→「マイリカバリについて」（→ P.37））。

それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

□Windows にログオンできない

●指紋認証でログオンできなくなった場合

いったんログオンパスワードを入力して Windows にログオンし、指紋認証に必要な情報を OmniPass に登録しなおしてください。（→「指紋認証について」（→ P.30））

●Windows のパスワードがわからなくなった場合

- あらかじめ「パスワードのヒント」を設定した場合は、Windows のログオン画面で ➔ をクリックすると、ログオンパスワードを思い出すためのヒントが表示されます。
- 「パスワード リセット ディスク」を作成済みであれば、パスワードをリセットし、新しいパスワードを設定することができます。Windows のログオン画面で ➔ をクリックすると、パスワードをリセットするためのメニューが表示されます。

**POINT**

- OmniPassがインストールされている場合は、パスワードのヒントやパスワードのリセットのためのメニューはセーフモードで起動（→ P.50）した場合のWindowsログオン画面でのみ表示されます。
- パスワード　リセット　ディスクの作成方法や、パスワードをリセットする場合の注意事項については、Windowsのヘルプをご覧ください。

**□プログラムが動かなくなってしまった**

●次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。
   「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
   プログラムが強制終了されます。

**POINT**

- プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.56）。

**□省電力機能が実行されない**

●電源オプションやBIOSの設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「省電力機能を使う」（→ P.21）をご覧ください。

**□周辺機器の動作が不安定になった**

●なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
ドライバを再インストールしてください。

**□ソフトウェアのインストールが正常に行われない**

●ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

**□画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない**

●Windowsを起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。

・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
・「スタート」ボタン→ [ボタン] の [▶] →「再起動」の順にクリックし、Windowsを再起動する

**POINT**

- Windowsを起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
  この場合、メッセージに従って、Windowsを再起動してください。

## ハードウェア関連のトラブル

### ハードウェア関連のトラブル一覧

●「表示が乱れる」（→ P.58）
●「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→ P.58）
●「マイクからうまく録音ができない」（→ P.58）
●「押したキーと違う文字が入力される」（→ P.58）
●「キーボード上に水や液体をこぼしてしまった」（→ P.59）
●「ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」（→ P.59）
●「USB デバイスが使えない」（→ P.59）
●「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される」（→ P.59）
●「プリンタを使用できない」（→ P.59）
●「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」（→ P.59）

## BIOS

**□管理者用パスワードを忘れてしまった**

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

**□ユーザー用パスワードを忘れてしまった**

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、『製品ガイド』－「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」をご覧ください。

**□エラーメッセージが表示された**

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。
エラーメッセージの内容と意味については、『製品ガイド』－「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

## 内蔵 LAN

**□ネットワークに接続できない**

**●ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。

**●ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
・100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。

**●内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。**
・無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
必要に応じて、『内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧になり、再度設定等を確認してください。
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
・LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、再インストールしてください。

**●画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。**

**●スリープや休止状態にしませんでしたか？**
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

**□ネットワークリソースに接続できない**

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。
●お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント/サービス/プロトコル）をインストールしていますか?
●各コンポーネントの設定は、正しいですか？
●サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
●サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
●サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

## ハードディスク

**□ハードディスクが使えない**

**●エラーメッセージは出ていませんか？**
『製品ガイド』－「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

**□ハードディスクからカリカリ音がする**

**●次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。**
・Windows を終了した直後
・スリープや休止状態にした直後
・パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
・中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
・パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

□頻繁にフリーズするなど動作が不安定

●次の手順でハードディスクをチェックしてください。

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
   「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。
   「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
   「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次回コンピュータ起動後に、ハードディスクのエラーを検査しますか ?」と表示されます。「ディスク検査のスケジュール」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（→「マイリカバリについて」（→ P.37））。

**POINT**

- **新しいユーザーを作成すると、エラーメッセージが表示されることがあります。この場合も、同様の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。**

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

●C ドライブの空き容量が充分か確認してください。

Windows のシステムファイルが格納されている C ドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。

C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。

空き容量を増やすには次のような方法があります。

・ごみ箱を空にする
  ファイルを削除しても「ごみ箱」に移動されるだけなので、ハードディスクの中にはデータが残っています。
  「ごみ箱」を空にしてください。

・不要なファイルを削除する
  自分で作成したファイルのうち、不要になったファイルを削除します。
  ファイルのサイズや最後に更新した日付などを確認しながら削除してください。
  自分で作ったファイル以外は、削除しないことをお勧めします。内容がよくわからないファイルをむやみに削除してしまうと、他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

・不要なソフトウェアを削除する
  普段使用していないソフトウェアがある場合は削除します。

・ディスククリーンアップをする
  インターネットからダウンロードしたプログラムファイル、テンポラリインターネットファイル、削除して「ごみ箱」に移動したファイル、一時ファイル、カタログファイルなど、たまった使用済みファイルの容量を確認し、不要なものを選択して削除できます。

## CD ／ DVD

□ディスクからデータの読み出しができない

●ディスクが正しくセットされていますか？

ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。

●ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？

汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

●ディスクが傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか？

ディスクを交換してください。

●規格外のディスクを使用していませんか？

規格に合ったディスクをお使いください。

□WinDVD が起動しない

●市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？

市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「Norton Internet Security」および「ウイルスバスター」は問題ありません。

●自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？

自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「Norton Internet Security」および「ウイルスバスター」は問題ありません。

□DVD の再生が円滑に行われない

●「WinDVD」を正しくインストールしましたか？

「WinDVD」を再インストールしてください。

●管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？

一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」を再インストールしてください。

●Wave 音源の再生、または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？

Wave 音源、または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

□外部ディスプレイに再生画面が表示されない

●パソコン本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？

マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

□DVD の再生音が小さい

●パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？

DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「音量ミキサ」の設定を調節してください。

□ディスクへの書き込み速度が遅い

●ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？

ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

## バッテリ

□状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

●バッテリは正しく取り付けられていますか？

バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、『製品ガイド』－「ハードウェア」－「バッテリについて」をご覧ください。

□状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

●バッテリ運用直後ではありませんか？

バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジに点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。

□バッテリが充電されない

●AC アダプタは接続されていますか？

AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

●バッテリが熱くなっていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジに点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

●パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジに点滅します。

バッテリの温度が 5 ℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

●充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

## ディスプレイ

□画面に何も表示されない

●「起動・終了時のトラブル」（→P.52）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

□ディスプレイの表示が見にくい

●ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

●明るさなどを調節しましたか？

『製品ガイド』－「機能」－「ディスプレイ関連」をご覧になり、明るさを調節してください。

□液晶ディスプレイが閉まらない

●間に物がはさまっていませんか？

無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

□表示が乱れる

●Windowsの画面が正常に表示されない場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください。

Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→ P.50）。

●ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。

1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

**POINT**

▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
- ・Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

●近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください（→ P.49）。

●外部ディスプレイに出力していますか？

外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください（→『製品ガイド』－「機能」－「ディスプレイ関連」）。

## サウンド

□スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

●内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。

- ・音量は正しく調節されていますか？
  本体側面の音量ボリュームで音量を調節してください。
- ・スピーカーの出力は ON になっていますか？
  本体側面の音量ボリュームを押して、ミュートになっていないかを確認してください。

●音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、『製品ガイド』－「機能」－「音量の設定」をご覧ください。

●音が割れる場合は、音量を小さくしてください。

●ハードウェアの競合が起こっていませんか？

●サウンドドライバが正しくインストールされていますか？

必要に応じて、再インストールしてください。

□マイクからうまく録音ができない

●音量は調節されていますか？

音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、『製品ガイド』－「機能」－「音量の設定」をご覧ください。

## キーボード

□押したキーと違う文字が入力される

●テンキーモードになっていたり、【CapsLk】キーが有効になっていませんか？

状態表示LEDのNum Lk表示やCaps Lk表示が点灯していないか確認してください。

●文字入力モードは正しく設定されていますか？

「Microsoft IME」の言語バー（またはタスクバー）の「入力モード」が正しく設定されているか確認してください。

●「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3. 「キーボード」をクリックします。
   「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

□キーボード上に水や液体をこぼしてしまった

●キーボード上に水などの液体がこぼれてしまった場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、キーボード上の液体は、パソコンを水平にしたまま、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
液体を拭き取った後、バッテリパックを外してください。
その後必ず、『サポート＆サービスのご案内』－「付録」－「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に点検を依頼してください。

## ポインティングデバイス

□ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

●キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P. 52）。

## USB

□USB デバイスが使えない

●ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

●USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

□USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される

●デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。

●外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。

1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン →「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
3. 「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。
4. 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
5. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
6. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
7. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

## プリンタ

□プリンタを使用できない

●次の点を確認してください。

・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
・プリンタの電源は入っていますか？
・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.55）

## その他

□使用中の製品に関する最新情報を知りたい

●製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

# それでも解決できないときは

## お問い合わせ先

本製品に添付されているソフトウェアは、提供会社によってお問い合わせ先が異なります。
お問い合わせについては、添付の冊子『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

# 4. 仕様一覧

## 本体仕様

<table>
<tr><th colspan="3">製品名称</th><th>FMV-BIBLO LOOX U/B50</th><th>FMV-BIBLO LOOX U/B50N</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">CPU [注1]</td><td colspan="2">インテル® Atom™ プロセッサー Z530（HT テクノロジ対応）[注2]</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.60GHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">キャッシュメモリ</td><td colspan="2">1次：32KB命令＋24KBデータ　2次：512KB（CPU内蔵）</td></tr>
<tr><td colspan="3">チップセット</td><td colspan="2">インテル® システム・コントローラー・ハブ</td></tr>
<tr><td colspan="3">システムバスクロック</td><td colspan="2">533MHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">メインメモリ</td><td colspan="2">標準 1GB（PC2-4200 SDRAM オンボード）ECC なし</td></tr>
<tr><td rowspan="4">表示機能</td><td colspan="2">グラフィックアクセラレータ</td><td colspan="2">チップセットに内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビデオメモリ</td><td colspan="2">最大 253MB（メインメモリと共用）</td></tr>
<tr><td colspan="2">液晶ディスプレイ [注3]</td><td colspan="2">LEDバックライト付5.6型ワイドタッチパネル式TFTカラー LCD1280×800ドット<br>（スーパーファイン液晶）</td></tr>
<tr><td colspan="2">解像度／発色数 [注4]</td><td colspan="2">液晶ディスプレイ表示：1280 × 800 ドット／ 1677 万色、<br>外部ディスプレイ表示：最大 1280 × 1024 ドット／最大 1677 万色、</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハードディスクドライブ [注5]</td><td>60GB（Ultra ATA100）</td><td>100GB/120GB/64GB フラッシュメモリディスク</td></tr>
<tr><td rowspan="5">オーディオ機能</td><td colspan="2">オーディオコントローラ</td><td colspan="2">チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック</td></tr>
<tr><td colspan="2">PCM 録音再生機能</td><td colspan="2">サンプリング周波数、最大 192kHz、24 ビット（再生時）[注7]、<br>サンプリング周波数、最大 48kHz、16 ビット（録音時）[注7]、<br>同時録音再生機能</td></tr>
<tr><td colspan="2">MIDI 再生機能</td><td colspan="2">OS 標準機能にてサポート</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー</td><td colspan="2">モノラルスピーカー内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="2">マイク</td><td colspan="2">デジタルマイク内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="3">キーボード</td><td colspan="2">キーピッチ約 15mm、キーストローク約 1.3mm、68 キー<br>（かな表記なし）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ポインティングデバイス</td><td colspan="2">スティックポイント、クリックボタン</td></tr>
<tr><td colspan="3">タブレットボタン</td><td colspan="2">× 5（プログラマブル× 2）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">通信機能</td><td colspan="2">LAN</td><td colspan="2">100BASE-TX/10BASE-T 準拠</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無線 LAN [注6]</td><td>規格</td><td colspan="2">IEEE 802.11a （W52/W53/W56）準拠、IEEE 802.11b 準拠、<br>IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n ドラフト 2.0 準拠 （Wi-FiR 準拠）[注8]</td></tr>
<tr><td>内蔵アンテナ</td><td colspan="2">ダイバーシティ方式 [注9]</td></tr>
<tr><td colspan="2">無線 WAN</td><td>－</td><td>HIGH-SPEED 対応無線 WAN<br>受信最大 7.2Mbps [注10]<br>送信最大 384Kbps</td></tr>
<tr><td colspan="2">Bluetooth ワイヤレステクノロジー</td><td colspan="2">Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR</td></tr>
<tr><td colspan="3">ワンセグチューナー [注6]</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="3">指紋センサー</td><td colspan="2">スライド方式</td></tr>
<tr><td rowspan="13">インターフェース</td><td rowspan="8">本体</td><td>SD メモリーカード [注11]</td><td colspan="2">1 スロット</td></tr>
<tr><td>コンパクトフラッシュカード [注12]</td><td colspan="2">CF+and CompactFlash Specification Revision1.4 準拠<br>TYPE I / TYPE II × 1 スロット</td></tr>
<tr><td>USB [注13]</td><td colspan="2">USB2.0 準拠× 1（右側面× 1）</td></tr>
<tr><td>LAN/CRT 変換コネクタ</td><td colspan="2">専用コネクタ× 1</td></tr>
<tr><td>オーディオ</td><td colspan="2">マイク [注14]：φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック<br>（入力：100mV 以下、入力インピーダンス (AC)1.5kΩ 以上 /(DC)2.0kΩ 以上）、<br>ヘッドホン：φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック<br>（出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）</td></tr>
<tr><td>FM トランスミッター</td><td colspan="2">送信周波数　76.0MHz ～ 90.0MHz</td></tr>
<tr><td>ポートリプリケータ</td><td colspan="2">専用コネクタ× 1</td></tr>
<tr><td>状態表示</td><td colspan="2">LED</td></tr>
<tr><td rowspan="2">変換ケーブル（LAN/CRT）</td><td>外部ディスプレイ</td><td colspan="2">アナログ RGB ミニ D-SUB15 ピン× 1</td></tr>
<tr><td>LAN</td><td colspan="2">RJ-45 × 1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ポートリプリケータ [注15]</td><td>外部ディスプレイ</td><td rowspan="3">－</td><td>アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1</td></tr>
<tr><td>USB [注13]</td><td>USB2.0 準拠 × 4</td></tr>
<tr><td>LAN</td><td>RJ-45 × 1</td></tr>
</table>

| 製品名称 | | FMV-BIBLO LOOX U/B50 | FMV-BIBLO LOOX U/B50N |
|---|---|---|---|
| 電源供給方式 | AC アダプタ | 入力 AC100 ～ 240V、出力 16V（2.5A） | |
| | バッテリ★ | 内蔵バッテリパック：<br>リチウムイオン 7.2V ／ 2900mAh | 内蔵バッテリパック：<br>リチウムイオン 7.2V ／ 2900mAh<br>内蔵バッテリパック（L）：<br>リチウムイオン 7.2V ／ 5800mAh |
| バッテリ稼働時間<br>（JEITA 測定法 1.0）[注16]★ | 内蔵バッテリパック | 約 5.2 時間 | |
| | 内蔵バッテリパック (L) | 約 11.2 時間 | |
| バッテリ充電時間[注17]★ | 内蔵バッテリパック | 約 4.2 時間 | |
| | 内蔵バッテリパック (L) | 約 5.3 時間 | |
| 消費電力[注18] | | 約 9W ／約 40W | |
| 省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注19] | | l 区分 0.00047(AAA) [注20、注21] | |
| 外形寸法（突起部含まず）★ | 内蔵バッテリパック | W171 × D135 × H26.5 ～ 33.0mm | |
| | 内蔵バッテリパック (L) | W171 × D155 × H26.5 ～ 33.0mm | |
| 質量★ | 内蔵バッテリパック | 約 565g | |
| | 内蔵バッテリパック (L) | 約 670g | |
| 温湿度条件 | | 温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 85%RH（動作時）、<br>温度－ 15 ～ 60 ℃／湿度 8 ～ 85%RH（非動作時）<br>（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと） | |
| プレインストール OS | | Windows Vista Home Premium（DirectX 10 対応） | |
| サポート OS [注22] | | Windows Vista Home Premium | |

★ LOOX U/B50N の場合、ご購入時に選択したものをご覧ください。
本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

注 1 ： ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 ： エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能に対応しています。

注 3 ： 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

注 4 ：
- グラフィックアクセラレータが出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
- 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 5 ： 容量は、1MB ＝ $1000^2$byte、1GB ＝ $1000^3$byte 換算値です。

注 6 ： カスタムメイドで選択した場合。

注 7 ： 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 8 ： Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注 9 ： IEEE802.11n ドラフト準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。

注 10 ： NTT ドコモとのご契約ならびに HIGH-SPEED 対応 ISP とのご契約が必要です。
また、FOMA ハイスピードエリア内で受信最大 7.2Mbps の高速データ通信が可能になりますが、ベストエフォート方式のため、通信環境や混雑状況により通信速度が変化する可能性があります。

注 11 ：
- すべての SD メモリーカードの動作を保証するものではありません。
- 著作権保護機能には対応していません。
- マルチメディアカード（MMC）やセキュアマルチメディアカード、SDIO カードには対応していません。
- miniSD メモリーカード、microSD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、miniSD カード、microSD カードが取り出せなくなることがあります。

注 12 ： すべてのコンパクトフラッシュメモリーカードの動作を保証するものではありません。

注 13 ：
- すべての USB 規格対応の周辺機器について、動作保証するものではありません。
- 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 14 ： OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。ラインイン端子として使用する場合には、次の仕様となります。
（入力：1Vrms 以下、入力インピーダンス 10kΩ）

注 15 ： カスタムメイドで選択した場合。

注 16 ： 社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」(http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 17 ： 電源 OFF またはスリープ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。

注 18： ・ 動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。
また AC アダプタ運用時の消費電力です。
・ 電源 OFF 時の消費電力は約 1W 以下（満充電時）です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 19： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 20： カッコ内のアルファベットは「A は 100%以上 200%未満、AA は 200%以上 500%未満、AAA は 500%以上」の省エネ達成率であることを示します。

注 21： 2008 年度基準で表示しています。

注 22： プレインストール OS のみサポートします。

## お問い合わせ先について

### ■お問い合わせ先

次の連絡先へお問い合わせください。

| こんなときには | こちらへ |
|---|---|
| 故障かなと思われたとき | 本紙の「トラブルシューティング」をご覧ください。<br>それでも解決できない場合は、ご購入元にご相談いただくか、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。 |
| 添付のソフトウェアのお問い合わせ | 本紙の「トラブルシューティング」をご覧ください。 |
| 技術的なご質問・ご相談 | 『製品ガイド』（PDF）をご覧ください。それでも不明な点がございましたら『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。 |
| 富士通サプライ品のご購入 | 富士通サプライ品のご購入については、「富士通コワーコ株式会社」の「お客様総合センター」までお問い合わせください。<br>< お問い合わせ先 ><br>フリーダイヤル ：0120-505-279<br>受付時間 ：9：00 ～ 17：30 （土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）<br>URL ：http://jp.fujitsu.com/coworco/ |

FMV-BIBLO LOOX U/B50, U/B50N

取扱説明書
B5FJ-9071-01-01

発 行 日　2008 年 8 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

Printed in Japan



㋐0808-1

本製品はPC3R「PCグリーンラベル制度」の審査基準(2008年度版)を満たしています。
詳細は、Webサイトhttp://www.pc3r.jp をご覧下さい。

大豆インキで印刷しています。

このマニュアルは再生紙を使用し、リサイクルに配慮して製本されています。
不要になった際は、回収･リサイクルに出してください。

T4988618610469